シラバス

石川県立総合看護専門学校
准看護学科
令和６年度入学生

シラバス

石川県立総合看護専門学校
准看護学科
令和６年度入学生

目　　次

１．教育理念・目的・目標 ―――― 1
２．３つのポリシー ―――― 3
３．教育課程の基本的な考え方 ―――― 4
４．教育課程の構成図 ―――― 6
５．カリキュラムツリー ―――― 7
６．教育計画 ―――― 8
７．科目の概要 ―――― 11
８．科目の評価基準 ―――― 13

基礎分野
　国語 ―――― 17
　英語
　情報の基本的取り扱い
　地域社会と人の暮らし
　接遇
　音楽のある生活

専門基礎分野 ―――― 23
　人体のしくみと働き
　栄養
　薬理
　疾病の成り立ち
　保健医療福祉のしくみ
　看護と法律

専門分野

基礎看護 ―――――――― 47
看護概論
基礎看護技術
臨床看護概論

成人看護 ―――――――― 81

老年看護 ―――――――― 101

母子看護 ―――――――― 104

精神看護 ―――――――― 118

特別講義 ―――――――― 124

教育に関する事項 ―――――――― 127

教科外教育活動 ―――――――― 128

准看護学科教育課程

Ⅰ．教育理念

生命尊重・人間愛・使命感・責任感・自立

Ⅱ．教育目的

准看護師として必要な知識及び技術を習得させ、地域社会に貢献しうる有能な人材を育成することを目的とする

Ⅲ．教育目標

1 対象を身体的、精神的、社会的な側面から統合し、地域社会で生活する人として理解できる能力を養う

2 対象の生き方、心情を理解できるように、豊かな感性及び情操を養う

3 対象の人権を守り、倫理に基づいた看護実践ができる基礎的能力を養う

4 医師、歯科医師、または看護師の指示のもとに、療養上の世話や診療の補助を、対象の安楽に配慮し、安全に実施できる能力を養う

5 准看護師の役割を認識し、他の医療・福祉従事者と協調できる態度を養う

Ⅳ．１年次の到達目標

1．看護の対象が生活者であることが理解できる
2．周囲に関心をもち、相手を思いやった行動ができる
3．誰に対しても挨拶ができ、場に応じた丁寧な言葉使いができる
4．日常生活援助の習得に向けて主体的に練習できる
5．相手の話を真剣に最後まで聞くことができる
6．振り返りの必要性を理解し、自己の課題に気づける
7．チームの一員になっていくことの自覚がもてる
8．学習する習慣が身に付く

Ⅴ．卒業生像　　准看護師としての役割を担える実践者

1 対象を尊重し、その人の生活・価値観をふまえた対象の理解ができる

2 指示された事柄については、その意味が理解できる

3 適切な観察が行え、対象にとっての正常異常が判断できる

4 対象の状況が変化し、指示の範囲外である場合は、指示者に報告・連絡相談ができる。実施後は実施した看護と対象の反応を報告できる

5 看護の実践者として指示に基づいて対象の安楽に配慮し自立を助け安全に援助の実施ができる

6 看護職に対する社会のニーズを捉え、自己の継続的な学習に取り組める

３つのポリシー

Ⅰ　ＡＰ（アドミッション・ポリシー）
期待する入学生像

１．挨拶ができＴＰＯをわきまえられる
２．自分の日常生活を自ら整えられる
３．素直に物事に取り組める
４．学習環境が整えられている

Ⅱ　ＣＰ（カリキュラム・ポリシー）
准看護師教育課程編成・実施の方針：シラバス参照
『准看護師として必要な基礎的能力の育成
他者を思いやり、配慮できる人材の育成』

１．看護の対象である人間を理解するための基礎的知識の習得
２．看護師から指示された事柄の意味を理解できるための基礎的知識の習得
３．対象に関心がもてる心を育む
４．対象の変化に気づけるための基礎的能力を育む
５．対象の安全、安楽に配慮した基本的な日常生活援助技術の習得
　　診療の補助技術の習得
６．意図的なコミュニケーション能力を育む
７．看護者としての倫理観を育む
８．自ら考え、判断、確認して行動できるための能力を育む

Ⅲ　ＤＰ（ディプロマ・ポリシー）
卒業認定の方針

１．対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある
２．対象に関心を寄せ、身体的・精神的変化に気づける
３．対象と信頼関係を築くための努力を行い必要なコミュニケーションがとれる
４．基本的な日常生活援助技術、診療の補助技術ができる
５．対象の思いを真摯に受け止め誠実な対応ができる
６．振り返りを行い、自己の課題に謙虚に取り組める
７．チームの一員としての准看護師の役割が認識できる
８．専門職として必要な学習が継続できる

教育課程の基本的な考え方

准看護師学校養成所指定規則を遵守し、かつ当校の教育理念、教育目的・目標が達成できるように構築している。

１）総授業時間数は１８９０時間とし、講義１１５５時間、実習時間７３５時間とした。
また、１年次：体育１０ｈ、ＫＡＮＡＺＡＷＡ－ＦＡＳＴ救命講習会２４ｈ
２年次：金沢こども医療福祉センター施設見学４ｈを特別講義とした。

２）基礎分野は、専門基礎分野、専門分野の土台となるよう、また、看護師教育との連携も考慮し、教育内容を「論理的思考の基盤」「人間と生活・社会」とした

① 論理的思考の基盤には、文章を正しく読解できること、文章を適切に表現することから論理的なものの考え方の基盤をつくるために「国語」を科目立てた。
また、将来医療看護活動の場でよく使用するであろう英語にもふれ、医療看護用語の読解につながるよう「英語」も科目立てた。
更にＩＣＴの基礎的知識、情報管理を学ぶ内容を盛り込み、「情報の基本的取り扱い」を科目立てた。

② 人間と生活・社会では、看護の対象が地域で生活する人であることの理解につなげるために「地域社会と人の暮らし」を科目立てた。更に人が日々の暮らしの中で、うるおい、楽しみを感じながら生活していることを感じ取れるための科目として「音楽のある生活」を科目立てた。そして人と関わる職業につく者として倫理観をもった対応ができるための基盤として「接遇」を科目立てた。

３）専門基礎分野は、専門分野の教育内容の土台として、対象の身体的、精神的、社会的理解が深まるよう「人体のしくみと働き」「栄養」「薬理」「疾病の成り立ち」「保健医療福祉のしくみ」「看護と法律」の６科目で構成した。
「人体のしくみと働き」については、従来の医師による講義に加え、生活者としての視点から看護につなげた人体のしくみと働きについて「生活からみた人体」を科目立て、教授することとした。
更に「薬理」に関しては、与薬における医療安全の視点から、薬物の特徴、作用機序、生体への影響を踏まえた取り扱いにつなげられるよう、薬理Ⅱを科目立て事例を踏まえての教授内容とした。

４）専門分野は、准看護師に求められる看護実践の基盤となる基礎的、基本的なことに重点をおいている。
基礎看護は「看護概論」「基礎看護技術」「臨床看護概論」の３科目で構成した。

「看護概論」はⅠ看護、人間、健康の理解　Ⅱ看護活動を取り巻く環境・システム
Ⅲ看護史・職業倫理の３つで構成した。Ⅱでは、当校の周辺の地域を調査する
フィールドワークを演習として取り組み、地域で生活する人々の暮らしを考える
内容とした。

「基礎看護技術」は、看護をイメージし、看護を考え実践するための、知識・技術・態度を習得させる主要科目である。生活とつなげて教授した人体のしくみと働きを活用し、技術の根拠を踏まえ、患者の状態に応じた安全で安楽な技術が提供できるような内容とした。

「臨床看護概論」では継続看護に地域包括ケアの内容を網羅した。更に、実践者としての役割が担えるよう事例を用い、臨地実習にも効果的につなげられるような内容とした。

成人・老年・母子・精神看護については、基礎看護を土台として、人間の成長・発達段階にあわせた成人、老年、母性、小児領域における対象について理解し、それらに対する看護の概要を学ぶ。また対象のこころの健康の保持増進と精神看護についても学ぶ内容とした。更に看護の対象が地域で生活する人であることを、看護概論、臨床看護概論で学んだこととつなげて学習していく内容とした。

５）臨地実習は、各科目で学んだ療養上の世話と診療の補助を臨地で体験させ、看護実践に必要な知識・技術・態度を習得できる内容としている。

Ⅴ　教育課程の構成図

2022. 4. 1

<table>
<tr><td rowspan="2">専門分野</td><td colspan="4">成人看護
系統別
・呼吸器
・循環器
・消化器
・血液･造血器系
・内分泌・代謝
・腎・泌尿器
・女性生殖器
・脳神経系
・骨関節筋肉系
・感覚器系

老年看護

母子看護

精神看護

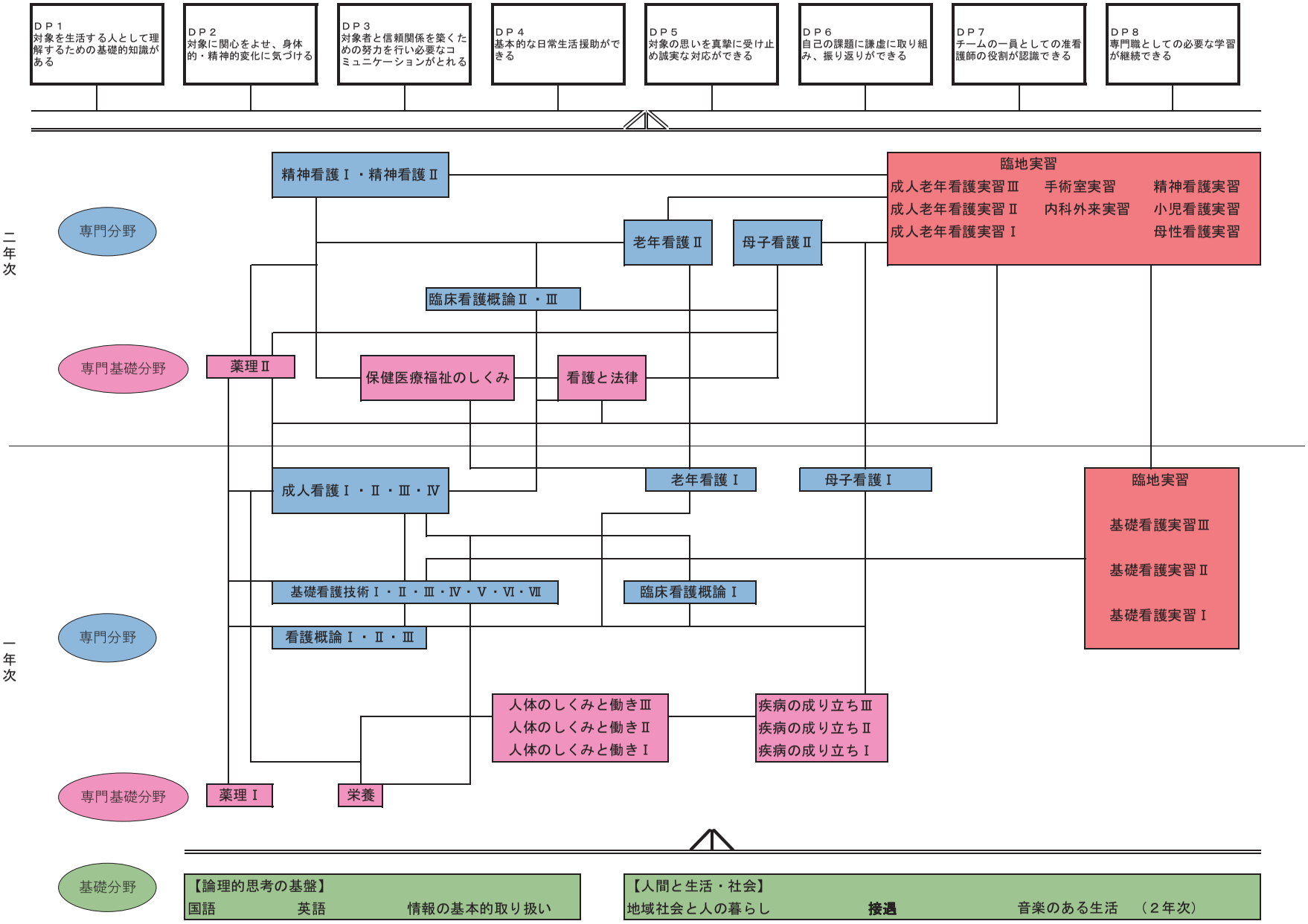
基礎看護
臨床看護概論
基礎看護技術
・看護技術の基本
・日常生活に対する看護
・診療に伴う看護
看護概論</td><td colspan="2">臨地実習
成人・老年看護実習
○病棟実習Ⅰ
○病棟実習Ⅱ
○病棟実習Ⅲ
○手術室･中央材料室
○外来

母子看護実習
○病棟（母性）
○外来（小児科）
○保育所

精神看護実習

基礎看護実習
Ⅲ
Ⅱ
Ⅰ</td></tr>
<tr><td colspan="4"></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>専門基礎分野</td><td>栄養</td><td>薬理</td><td>人体のしくみと働き</td><td>疾病の成り立ち</td><td colspan="2">保健医療福祉のしくみ
看護と法律</td></tr>
<tr><td rowspan="2">基礎分野</td><td>国語</td><td>英語</td><td>情報の基本的取り扱い</td><td>地域生活と人の暮らし</td><td>接遇</td><td>音楽のある生活</td></tr>
<tr><td colspan="3">論理的思考の基盤</td><td colspan="3">人間と生活・社会</td></tr>
</table>

准看護学科　カリキュラムツリー　　Ｒ５．９月



教育計画

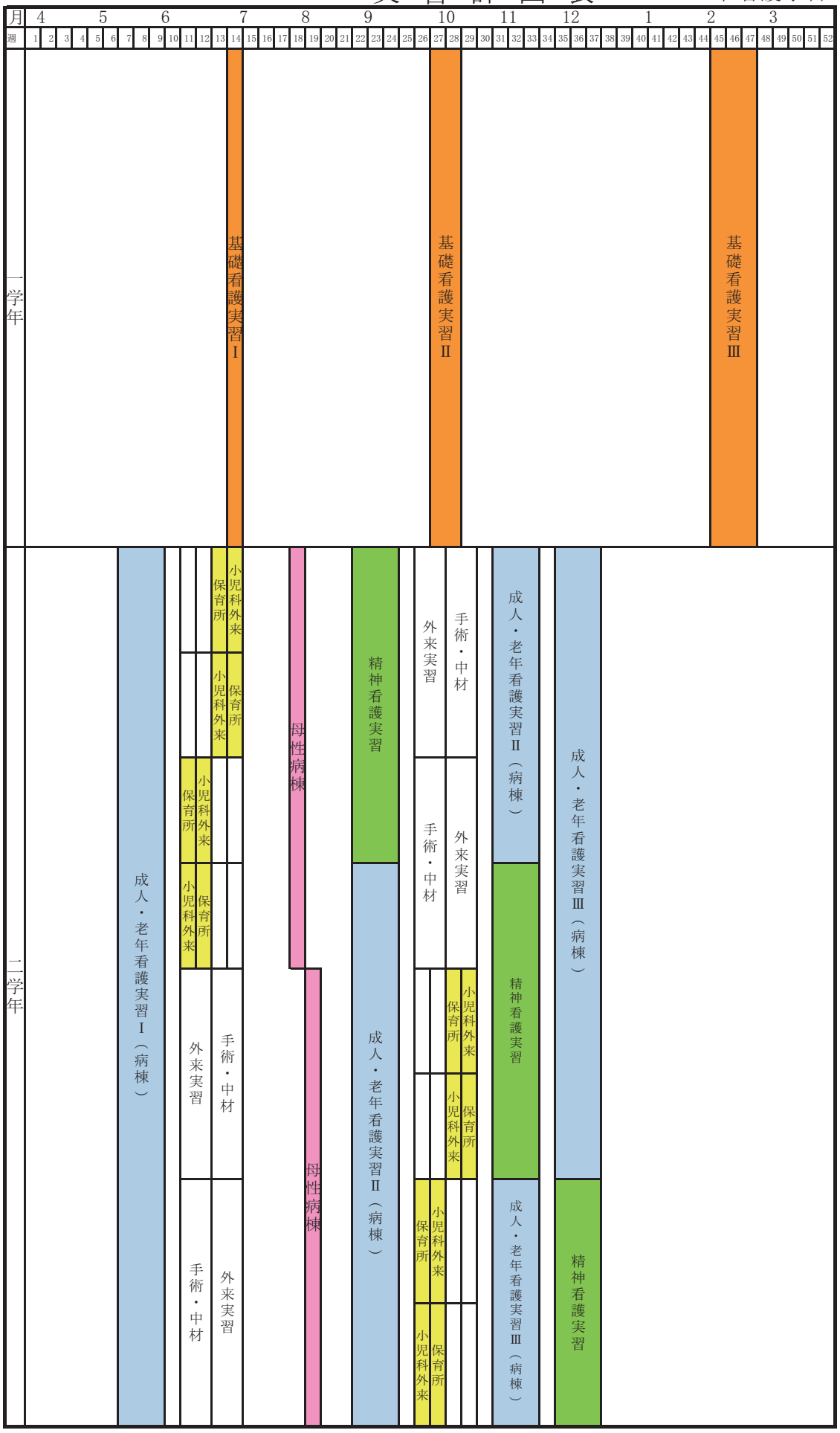
科　目		時間数	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
基礎分野	**論理的思考の基盤**					
	国語	10				
	英語	10				
	情報の基本的取り扱い	15				
	人間と生活・社会					
	地域社会と人の暮らし	19				
	音楽のある生活	6				
	接遇	10				
専門基礎分野	人体のしくみと働き	105				
	栄養	35				
	薬理	70				
	疾病の成り立ち	105				
	保健医療福祉のしくみ	20				
	看護と法律	15				
専門分野	看護概論	70				
	基礎看護技術	245				
	臨床看護概論	70				
	成人看護	140				
	老年看護	70				
	母子看護	70				
	精神看護	70				
	基礎看護実習	210				
	成人老年看護実習	385				
	母子看護実習	70				
	精神看護実習	70				
講　義　計		1155				
実　習　計		735				
総　合　計		1890				

系統別時間数

系統	科目			時間	1年前期						1年後期					
	人体のしくみ働き	疾病の成り立	成人看護疾患	成人看護看護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
総論	10	30		8	10	30				8						
生活からみた人体	15					15										
感染と予防		35			20	15										
骨格・筋	12	4	8	8		12			12				8			
血液造血器	4	4	6	6							8		6	6		
循環器	10	4	6	6		10					10		6			
呼吸器	8	4	6	6		8	10				6					
消化器	6	4	8	10			6					12		10		
泌尿器	6	2	4	6								12		6		
女性生殖器	4	2	6	6					12		6					
内分泌代謝	6	4	4	6				14				6				
脳神経	10	4	4	8			10			8		8				
皮膚	4	2	2	2								8		2		
眼	4	2	4	2								10		2		
平衡感覚	4	2	4	2						10	2					
歯・口腔	2	2	2											6		
計	105	105	140													

実 習 計 画 表

准看護学科


月
週
一学年
基礎看護実習Ⅰ
基礎看護実習Ⅱ
基礎看護実習Ⅲ
二学年
成人・老年看護実習Ⅰ（病棟）
小児科外来
保育所
保育所
小児科外来
保育所
小児科外来
小児科外来
保育所
外来実習
手術・中材
手術・中材
外来実習
母性病棟
母性病棟
精神看護実習
成人・老年看護実習Ⅱ（病棟）
外来実習
手術・中材
手術・中材
外来実習
小児科外来
保育所
保育所
小児科外来
小児科外来
保育所
成人・老年看護実習Ⅱ（病棟）
精神看護実習
成人・老年看護実習Ⅲ（病棟）
成人・老年看護実習Ⅲ（病棟）
精神看護実習

科目の概要　＊授業時間は２時間＝90 分

【基礎分野】

教育内容		科目名	時間数	ねらい及び内容
基礎分野	論理的思考の基盤	国語	10	文章を正しく読解し適切に表現する能力を高め、論理的なものの考え方、文章の書き方について学ぶ。
		英語	10	医療看護活動の場でよく使用される英単語を理解できるような内容とする。
		情報の基本的取り扱い	15	情報通信技術の基礎的知識を知り基本操作を学ぶ。情報倫理を遵守することの意義を理解する。
	人間の生活・社会	***音楽のある生活***	***6***	感性を高め表現する楽しさを味わえる内容とし、音楽療法の概要について学ぶ。
		地域社会と人の暮らし	19	地域社会における暮らしについて学び、看護の対象が地域で生活している人であることを学ぶ。
		接遇	10	人と関わる職業につく者として、他者への倫理的配慮を踏まえ、看護者としての対応のあり方を学ぶ。
	小計		70	１年次（６４ｈ）　***２年次（６ｈ）***

【専門基礎分野】

教育内容		科目名	時間数	ねらい及び内容
専門基礎分野	人体の仕組みと働き	人体のしくみと働き Ⅰ（35） Ⅱ（34） Ⅲ（36）	105	日常生活を営んでいる人の身体の状況を把握できるように、身体の構造と機能の概要を系統的に教授する。 看護の視点で生活することとつなげて、動く・食べる・息をするなどの人体のしくみ働きについて教授する。
	栄養	栄養	35	健康的な食生活と栄養及び健康障害時の栄養について教授する。
	薬理	薬理 Ⅰ(35) ***Ⅱ(20・15)***	70	薬物の特徴、作用機序、生体への影響及び薬物の安全な取り扱いについての基本を教授する。
	疾病の成り立ち	疾病の成り立ち Ⅰ(30)Ⅱ(35) Ⅲ(40)	105	疾病の成り立ちと経過及び生体の反応について系統別に病態を学ぶ。 感染と感染防止について学ぶ。
	保健医療福祉	***保健医療福祉のしくみ***	***20***	健康的な生活を支える保健医療福祉システムについて教授する。
	看護と法律	***看護と法律***	***15***	看護活動に関連する法規の概要について教授する。
	小計		350	１年次（２８０ｈ）　***２年次（７０ｈ）***

【専門分野】

教育内容		科目名	時間数	ねらい及び内容
専門分野	基礎看護	看護概論	70	保健医療福祉における看護の位置づけを明らかにしながら、看護の本質が明らかになるように、看護の対象と役割について教授する。また、人間の尊厳を基盤とした看護の専門職業人として、良識ある判断と行動がとれるような倫理観を養う。
		基礎看護技術	245	看護実践の基礎となる患者への対応の仕方、日常生活の援助技術、診療の補助技術の根拠を明らかにして行うことができる内容とする。また、問題解決技法としての看護過程の考え方について教授する。
		臨床看護概論	70 22h *48h*	健康障害をもつ対象の理解と状態に応じた看護の役割と方法, 地域包括ケアの内容も網羅し実践者としての役割が担えるよう教授する。
	成人看護		140	成人期にある対象の特徴を理解させ、疾病障害を持つ人の日常生活の援助と診療の補助について教授する。
	老年看護 老年看護Ⅰ *老年看護Ⅱ*		70 28h *42h*	老年期にある対象の特徴を理解させ、疾病障害を持つ人の日常生活の援助と診療の補助、高齢者の暮らしの場について教授する。
	母子看護 母子看護Ⅰ	 母性看護Ⅰ 小児疾患	70 10 *16*	 生命誕生から母性の特徴を教授する。 小児の疾患、治療検査について教授する。
	母子看護Ⅱ	*母性看護Ⅱ* *小児看護*	*20* *24*	妊婦、産婦、褥婦及び新生児の看護について教授する。 小児の特徴を理解し、疾病・障害をもつ小児の日常生活援助と診療の補助について教授する。
	精神看護		*70*	人間の心の健康を成長発達・社会適応の面から捉え、精神の健康の保持増進と精神障害時の日常生活援助と診療の補助について教授する。
		小計	735	１年次（５３１ｈ）　*２年次（２０４ｈ）*
臨地実習	基礎看護		210	「基礎看護」「成人・老年看護」「母子看護」及び「精神看護」で学んだ知識・技術・態度を臨地で体験させ、日常生活の援助と診療に伴う援助が実践できる能力を養う内容とする。
	成人看護		*385*	
	老年看護			
	母子看護		*70*	
	精神看護		*70*	
	小計		735	１年次（２１０ｈ）　*２年次（５２５ｈ）*
		総計	1,890	１年次（１０８５ｈ）*２年次（８０５ｈ）*

科目の評価基準

准看護学科

	科　目	時間数	単　元	内訳	評価配分	1年	2年
基礎分野	国語	10				○	
	英語	10				○	
	情報の基本的取り扱い	15				○	
	地域社会と人の暮らし	19				○	
	接遇	10				○	
	音楽のある生活	6					○
専門基礎分野	人体のしくみと働きⅠ	35*	総論	10	10/34	◎	
			脳神経系	10	10/34		
			生活から見た人体	15*	14/34		
	人体のしくみと働きⅡ	34	循環器	10	10/38	◎	
		*34＋4	呼吸器	8	8/38		
		体液は成り立ち含	筋骨格系	12	12/38		
			体液　＊	4＋4	8/38		
	人体のしくみと働きⅢ	36	女性生殖器	4	4/36	◎	
			内分泌代謝	6	6/36		
			腎泌尿器	6	6/36		
			消化器系	6	6/36		
			皮膚	4	4/36		
			眼	4	4/36		
		成り立ち4	平衡聴覚器	4	4/36		
		105	歯・口腔	2	2/36		
	栄養	35		35*		○	
	薬理	70	薬理Ⅰ	35*		○	
			薬理Ⅱ	35*			○
	疾病の成り立ちⅠ	30	総論Ⅰ	10	10/30	◎	
			総論Ⅱ	10	10/30		
			総論Ⅲ	10	10/30		
	疾病の成り立ちⅡ	35*	感染と予防Ⅰ	20	20/34	◎	
			感染と予防Ⅱ	15*	14/34		
	疾病の成り立ちⅢ	40	呼吸器	4			
		成人看護	循環器	4			
		ⅠⅡの評	消化器系	4			
		価に含む	血液・造血器	4			
			代謝内分泌	4			
			腎・泌尿器	2			
			脳神経	4			
			女性生殖器系	2			
			運動器	4			
			感覚器　皮膚疾患	2			
			眼疾患	2			
			耳疾患	2			
		105	歯科口腔	2			
	保健医療福祉のしくみ	20	医療のしくみ	6	6/20		◎
			公衆衛生のしくみ	6	6/20		
			社会福祉のしくみ	8	8/20		
	看護と法律	15		15*			○
専門分野	基礎看護 看護概論	70	看護概論Ⅰ	27*	26	○	
		試験4h	看護概論Ⅱ	23*	22	○	
		含む	看護概論Ⅲ	20**	18	◎	
			看護史	9*	8/18		
			職業倫理	11*	10/18		
	基礎看護技術Ⅰ（基本技術1）	34	コミュニケーションとは	12	12/34	◎	
			各状況における患者の理解				
			患者の心理とコミュニケーション	12	12/34		
			看護過程	10	10/34		
	基礎看護技術Ⅱ（基本技術2）	34	観察・記録・報告	10	10/32	◎	
			バイタルサイン②	18(20)	18/32		
			身体各部の計測	4	4/32		

	科　目	時間数	単　元	内訳	評価配分	1年	2年
専門分野	基礎看護技術Ⅲ（日常生活1）	44	環境②	20(22)	20/40	◎	
			活動②	20(22)	20/40		
	基礎看護技術Ⅳ（日常生活2）	34	衣服清潔②	32(34)		○	
	基礎看護技術Ⅴ（日常生活3）	34	食事	14	14/34	◎	
			排泄	20	20/34		
	基礎看護技術Ⅵ（診療の補助）	26	診察の介助	12	12/26	◎	
			罨法他	14	14/26		
	基礎看護技術Ⅶ	39	安全と感染予防②	14(16)	14/36	◎	
			与薬・輸血	23*	22/36		
	②×5技術テスト10H含む	245					
	臨床看護概論Ⅰ	22	患者理解・過程	14	14/22	◎	
			リハビリテーション	4	4/22		
			麻酔法	4	4/22		
	臨床看護概論Ⅱ	14	症状別	14			○
	臨床看護概論Ⅲ	34	治療処置	30	30/34		◎
			継続看護	4	4/34		
		70					
	成人看護Ⅰ	30	脳神経系	4＋4	8/46	◎	
		（＋16）	筋骨格系	8＋4	12/46		
			血液免疫系	6	6/46		
			循環器	6＋4	10/46		
			呼吸器系	6＋4	10/46		
	成人看護Ⅱ	34	消化器系	8＋4	12/54	◎	
		（＋20）	代謝内分泌	4＋4	8/54		
			腎泌尿器	4＋2	6/54		
			女性生殖器	6＋2	8/54		
			皮膚科	2＋2	4/54		
			眼科	4＋2	6/54		
			平衡聴覚器系	4＋2	6/54		
			歯科口腔	2＋2	4/54		
	成人看護Ⅲ	36	成人看護概論	8	8/36	◎	
			脳神経看護	8	8/36		
			筋骨格系看護	8	8/36		
			血液免疫系看護	6	6/36		
			女性生殖器看護	6	6/36		
	成人看護Ⅳ	40	呼吸器看護	6	6/40	◎	
			消化器看護	10	10/40		
			内分泌系看護	6	6/40		
			腎泌尿器看護	6	6/40		
			循環器看護	6	6/40		
			皮膚科看護	2	2/40		
			眼科看護	2	2/40		
			平衡聴覚器看護	2	2/40		
	成人看護	140					
	疾病の成り立ち	40					
	老年看護Ⅰ	28	高齢者の理解			○	
	老年看護Ⅱ	42	原則・特徴	22	22/36		◎
			疾患・看護	10	10/36		
			疾患・看護	4	4/36		
		70	介護・地域包括	6	なし		
	母子看護						
	母子看護Ⅰ	26	母性看護Ⅰ（生命誕生の経過）	10	10/26	◎	
			小児疾患	16	16/26		
	母子看護Ⅱ	44	母性看護Ⅱ	20	20/44		◎
			小児看護	24	24/44		
		70					
	精神看護Ⅰ	40					
			精神保健	20	20/40		◎
			疾患	20	20/40		
	精神看護Ⅱ	30	看護	20			○
			看護GW	10	なし		
		70					

科　目		時間数	単　元	内訳	評価配分	1年	2年
臨地実習	基礎看護	210	Ⅰ　＋2hオリテ	24	なし		
			Ⅱ	72		○	
			Ⅲ	112		○	
	成人老年看護	385	Ⅰ（病棟）1hオリテ含む	97			◎
			Ⅱ（病棟）	96			
			Ⅲ	96			
			外来	32	臨床のみ		
			手術室・中材	64	臨床のみ		
	母子看護	70	母性病棟（オリテ3h含）	19	教員のみ		◎
			小児外来（オリテ3h含）	19	臨床のみ		
			保育所	32	なし		
	精神看護	70					○
						31	13

1．＊　　試験1h含む
　＊＊　試験2h含む

2．基礎看護技術：単元名②　技術試験2h

3．◎　学年末に各単元の点数を加重平均した点数を科目の評価とする

基 礎 分 野

科目名　国語	時間数　１０Ｈ 時期　１年前期	講義担当者 外部講師

科目のねらい・授業目標

文章を正しく読解し、適切に表現する能力を高め、論理的なものの考え方を知る。

DP との関連

ＤＰ３：信頼関係を築き必要なコミュニケーションがとれる。

ＤＰ５：対象の思いを真摯に受け止め誠実な対応ができる。

ＤＰ６：自己の課題に謙虚に取り組み振り返りができる。

授業内容	方法	備考
１．敬語 　敬語の種類と使い分け 　注意すべき敬語・配慮を示す言葉 ２．文法 ３．レポートの書き方 ４．文章の読解	講義	

使用する図書	評価方法
スキルアップ！日本語力　東京書籍	筆記試験
参考図書	
受講上の注意	

科目名　英語	時間数　１０Ｈ 時期　１年前期	講義担当者 外部講師

科目のねらい・授業目標

医療看護活動の場で、よく使用される英単語を理解できる。

DP との関連

ＤＰ　７　チームの一員として准看護師の役割が認識できる。

８　専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
１．医療関係の職種 ２．病院の診療科の名称 ３．診察での会話 ４．症状　看護師との会話	講義	

使用する図書

医療と看護の総合英語　Ｔａｋｅ　Ｃａｒｅ　三修社

参考図書

受講上の注意

評価方法

筆記試験

科目名　情報の基本的取り扱い	時間数　１５Ｈ ＋試験４Ｈ 時期　１年前期	講義担当者 外部講師

科目のねらい・授業目標

情報通信技術の基礎的知識について知る。

情報を安全に活用し、相手や文脈・状況を考慮したコミュニケーションを考える。

自分とは異なる価値観を寛容に受容することができる。

DP との関連

ＤＰ：７ チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

授業内容	方法	備考
１．情報の定義と特徴	講義	
１）情報とは何か		
２）情報の特性		
３）情報の伝達とコミュニケーション		
２．看護と情報		
１）看護における情報		
３．情報リテラシー		
１）情報化社会の成立		
２）情報化社会で求められること		
３）情報倫理とは		
４）個人情報の保護		
４．コンピューターリテラシーとセキュリティ	講義	
１）パソコンに関する基礎知識	実技	
２）インターネットに関する基礎知識		
３）インターネットを活用した情報収集		
４）ｗｏｒｄの基本操作		
５．まとめ		

使用する図書	評価方法 レポート(実技)
参考図書	
受講上の注意	

科目名 地域社会と人の暮らし	時間数　１９Ｈ 時期　１年前期	講義担当者 外部講師

科目のねらい・授業目標

看護の対象が、社会の一員として地域で生活している人であることを理解できる。

DP との関連

ＤＰ：１　対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

授業内容	方法	備考
Ⅰ　地域社会 ・地域社会とは ・地域社会の役割 ・地域社会とのつながり	講義 グループ討議	
Ⅱ　家庭生活 ・家庭生活の捉え方 ・家族の役割 　子供の養育 　高齢者介護		

使用する図書	評価方法 課題レポート
参考図書	
受講上の注意	

科目名 接　遇	時間数　１０Ｈ 時期　１年前期	講義担当者 外部講師

科目のねらい・授業目標

・社会人基礎力としての他者への対応を考える。

・医療サービスの目的、求められるサービスの提供について看護職のあり方を学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１　対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２　対象に関心を寄せ、身体的、精神的変化に気づける。

ＤＰ３　対象者との信頼関係を築くための努力を行い必要なコミュニケーションがとれる。

ＤＰ５　対象の思いを真摯に受け止め誠実な対応ができる。

ＤＰ６　自己の課題に謙虚に取り組み、振り返りができる。

授業内容	方法	備考
・接遇の基本 ・医療におけるサービス ・看護部門のサービス ・患者サービスの実践 ・職場の人間関係と仕事の進め方 ・話し方と聞き方	講義	

使用する図書	評価方法 筆記試験
参考図書	
受講上の注意	

科目名　音楽のある生活	時間数　６Ｈ 時期　２年次	講義担当者 外部講師

科目のねらい・授業目標

感性を高め、日々の生活において表現する楽しさを知る。

音楽療法の概要について知る。

DP との関連

ＤＰ１　対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２　対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

ＤＰ７　チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

授業内容	方法	備考
１．日々の暮らしの中での音楽	実技	
２．音楽療法について	講義	

使用する図書	評価方法 出席、授業の参加状況などから総合的に評価する。
参考図書	
受講上の注意	

専門基礎分野

科目名　人体のしくみと働き 【人体のしくみと働きⅠ】	総時間数　１０５Ｈ 人体のしくみと働きⅠ：３５Ｈ 【生活からみた人体】 （15H:試験 1H 含む） 【総論】（10H） 【各論：脳神経系】（10H） 時期　１年前期	講義担当者 専任教員 外部講師

科目目標：日常生活を営んでいる人の身体の状況を把握できるように、身体の構造と機能の概要を系統的に理解する。

単元目標【生活からみた人体】

１．日常生活行動からみた人体のしくみと働きを学ぶ。

２．看護の視点での人体のしくみと働きを知る。

単元目標【総論】

１．ヒトのからだの形態とその組み立て、およびからだの働きを学ぶための基本となる名称、用語を理解する。

２．人体を構成する基本単位である細胞、組織、器官について学ぶ。

３．人体がどのような機能系の組み合わせでできているのか理解する。

単元目標【各論】

１．中枢神経系（脊髄と脳）の構造と機能、末梢神経系（脳神経脊髄神経、自立神経系）の構造と機能及びその分布を学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

授業内容	方法	備考
【生活から見た人体】（15H） １．人間が生きること、生活すること １）体を構成する細胞 ２）内部環境の恒常性 ３）生命維持 ４）生活行動	講義	
２．脳神経（認識する　情報を伝える） １）感じたことを認識し、行動へつなげるしくみ ＊育てられ方や、人間関係の中で作り出されるその人らしさ ２）中枢神経系のしくみと働き ・大脳、間脳、小脳、脳幹 ・脳神経、脊髄神経	講義	

3）末梢神経系のしくみと働き ・感覚神経 ・運動神経（本性神経系、自律神経系） 3．ホルモン（恒常性を維持する） 1）体液 2）血漿 3）体温 4）恒常性維持のためのホルモンのはたらき 4．循環（物質の流通） 1）循環器系は物流システム 2）心臓、血管のしくみと働き 3）肺循環、体循環 4）脈拍 5）血圧 5．呼吸（息をする） 1）酸素と二酸化炭素の運搬 2）肺、気道、胸郭（肋骨、胸骨、胸椎）のしくみと働き 3）内呼吸、外呼吸 4）ガス交換		
6．運動と休息 1）からだを動かすしくみ（運動神経） 2）姿勢 3）骨・関節・筋肉の構造と働き 4）運動 5）休息	講義	
7．食事（食べる） 1）食欲のしくみ（脳神経系の働き） 2）食べる動作 ・食事の準備 ・食べ物を認識する ・食べ物を口に運ぶ ・味わう	講義	

3）噛んで飲む動作 ・咀嚼機能 ・嚥下機能 4）消化と吸収（消化管と付属臓器の働き） 5）栄養素を細胞まで届けるしくみ（循環器系の働き） 8．排泄（トイレに行く） 1）体内のゴミ処理のしくみ 2）尿意・便意 3）排尿のしくみと働き 排泄のしくみと働き 4）排泄動作		
9．清潔（お風呂に入る） 1）皮膚の構造と働き ・皮膚の構造 ・感覚器としての皮膚の働き ・感染の予防 2）清潔行動 ・目的と効果（垢を落とす、温熱効果） ・からだの動き（姿勢の維持）	講義	
10. 生活からみた人体のまとめ	グループワーク	
【総論】(10H) Ⅰ　総論 1　解剖学、生理学とは 2　人体各部の名称 3　人体各部の体位を示す用語 Ⅱ　人体の構成 1　細胞 1)　人体の細胞の形態 2)　細胞の内部構造 3)　細胞分裂 2　組織 1)　上皮組織 2)　支持組織 3)　筋組織	講義	

4) 神経組織 3 器官 1) 中空器官 2) 実質器官 4 漿膜と漿膜腔 Ⅲ人体の器官系 1 筋骨格系 2 循環器系 3 呼吸器系 4 消化器系 5 泌尿器系・生殖器系 6 内分泌系 7 神経系 8 感覚器系 【各論：脳神経系】(10H) 1 ニューロンとその働き 1) ニューロン 2) 興奮の伝導と伝達 2 中枢神経系の解剖 1) 脊髄 2) 脳 3) 伝導路 4) 髄膜 5) 脳室と脳脊髄液 6) 脳の血管系 3 末梢神経系の解剖 1) 脳神経 2) 脊髄神経 3) 自律神経系 4 中枢神経系のはたらき 1) 脊髄反射 2) 延髄・橋 3) 中脳 4) 小脳 5) 間脳 6) 大脳皮質 7) 大脳辺縁系		

<table>
<tr><td colspan="2">8）大脳基底核
5　中枢神経系の活動
1）脳波
2）睡眠
3）条件反射
6　自律神経系
1）交感神経
2）副交感神経
3）自律神経系のはたらき</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">使用する図書
看護学入門１巻「人体のしくみと働き」メヂカルフレンド社
看護学入門６巻「基礎看護：基礎看護技術」メヂカルフレンド社
「目でみるからだのメカニズム」医学書院
看護学生プレトレーシング　人体のしくみ　メヂカルフレンド社</td><td rowspan="3">評価方法
「生活からみた人体」:筆記試験（15H は試験 1H ふくむ）
「総論」:レポート
「各論：脳神経系」筆記試験</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書
日本看護協会出版会，看護形態機能学
ナースが視る人体，医学書院</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講上の注意
「生活からみた人体」：入学前のプレトレーシングの学習内容を活用する。</td></tr>
</table>

科目名　人体のしくみと働き 【人体のしくみと働きⅡ】	時間数 人体のしくみと働きⅡ：３４Ｈ 【各論：筋骨格系】(12H) 【各論：体液】(4H) 【各論：循環器系】(10H) 【各論：呼吸器系】(8H) 時期　１年前期	講義担当者 外部講師

単元目標　【各論】

１．骨の構造、その発生、成長、結合の仕方および筋の構造、刺激・興奮のメカニズムについて学ぶ。

２．構成する骨と付着する筋肉、分布する血管や神経を学ぶ。

３．身体内の液状成分である体液について学ぶ。

４．体幹の血管系（心臓の構造、機能、血管の構造）と血液の循環、リンパ管の分布およびリンパ管の分布およびリンパ節の構造、種類、その機能を学ぶ。

５．呼吸器系の器官について構造機能および呼吸の生理を学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

授業内容	方法	備考
【各論：筋骨格系】(12H) Ⅰ　運動器系 　1　骨学総論 　　1)　骨の形状 　　2)　骨の構造 　　3)　骨の発生 　　4)　骨の化学的成分 　　5)　骨の連結 　2　骨の軟骨の生理 　3　筋学総論 　　1)　筋の形状 　　2)　筋の補助装置 　　3)　筋の神経支配 　4　興奮性組織の一般生理 　　1)　静止電位と活動電位 　　2)　閾値と全か無の法則 　　3)　興奮の伝導と伝達 　5　筋の生理 　　1)　筋の収縮 　　2)　平滑筋	講義	各論：筋骨格系、循環器系、呼吸器系は講義終了後、1H テスト。

Ⅱ　体幹（体壁）上肢下肢頭部の解剖 1　体幹の骨と筋 1）脊柱 2）胸郭 3）骨盤 4）頸部の筋 5）胸部の筋 6）腹部の筋 7）背部の筋 2　体壁の血管系と神経 3　上肢の骨と筋 4　上肢の血管系と神経 5　下肢の骨と筋 6　下肢の血管系と神経 7　頭部の骨と筋 1）頭蓋 2）頭部の筋 8　頭部の血管系と神経 【各論：体液】（4H） 1　体液 2　血液 1）血液の細胞成分 2）血漿 3）血糖 4）血液凝固 5）赤血球沈降速度 6）酸塩基平衡 7）溶血とリンゲル液 8）血液型 3　リンパ系とリンパ組織 1）リンパ管 2）リンパ節 3）脾臓 4）胸腺 【各論：循環器系】（10H） 1　心臓		各論：体液は疾病の成り立ちⅢ各論、血液・造血器疾患終了後、テスト。

1） 心臓の構造 2） 心臓壁に分布する血管 3） 心臓に分布する神経 2　血管 1） 血管の種類と構造 3　血液の循環 1） 肺循環のおもな血管 2） 体循環のおもな血管（動脈系） 3） 体循環のおもな血管（静脈系） 4　胎児の循環 5　心臓の生理 1） 心筋収縮の特性 2） 心音と心拍数 3） 心拍出量 4） 心電図 5） 心臓機能の調節 6　循環の生理 1） 血管の性質 2） 冠循環 3） 脳循環 7　血圧 1） 動脈血圧 2） 動脈血圧の測定 3） 血圧の調節 4） 血管収縮物質と血管拡張物質 5） 血圧の異常 【各論：呼吸器系】(8H) 1　呼吸器系の器官 1） 鼻腔 2） 咽頭 3） 喉頭 4） 気管および気管支 5） 肺 6） 胸膜 7） 縦郭 2　呼吸の生理 1） 外呼吸と内呼吸		

<table>
<tr><td colspan="2">2） 呼吸運動
3） 呼吸数、換気量、呼吸量
4） 血液ガス
5） 呼吸の調節
6） 異常な呼吸
7） 酸素負債
8） 最大酸素摂取量</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">使用する図書
看護学入門１巻「人体のしくみと働き」メヂカルフレンド社
「目でみるからだのメカニズム」医学書院</td><td rowspan="3">評価方法
筆記試験</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講上の注意</td></tr>
</table>

科目名　人体のしくみと働き 【人体のしくみと働きⅢ】	時間数 人体のしくみと働きⅢ：３６Ｈ 【各論：消化器系】(6H) 【各論：内分泌系】(6H) 【各論：泌尿生殖器系】(6H) 【各論：女性生殖器系】(4H) 【各論：感覚器系】(14H) 時期　１年前期	講義担当者 外部講師

単元目標　【各論】

１．消化器系の器官、付属腺の構造、機能および消化、吸収のメカニズムについて学ぶ。

２．内分泌腺の構造と機能、および分泌されるホルモンの種類と機能障害が人体に与える影響を学ぶ。

３．泌尿器系および男性生殖器の各器官の構造とその機能、尿の生成と排泄の生理を学ぶ。

４．女性生殖器系の器官の構造とその機能について学ぶ。

５．感覚器の構造と機能について学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

授業内容	方法	備考
【各論：消化器系】(6H) 1　消化器系の器官 1)　口腔 2)　食道 3)　胃 4)　小腸 5)　大腸 6)　肝臓および胆嚢 7)　膵臓 8)　腹膜 2　消化器系の血液循環と神経 3　消化と吸収の生理 1)　口腔における消化 2)　胃における消化 3)　小腸における消化と吸収 4)　大腸における吸収と排便 5)　栄養素の吸収 6)　肝臓の働き 4　エネルギー代謝 1)　３大栄養素 2)　呼吸商 3)　基礎代謝	講義	消化器系は講義6H 終了後、テスト 1H。 上記以外は、すべて疾病の成り立ちと成人看護(各系統別疾病)を含めてテスト１H。

4) エネルギー代謝率 【各論：内分泌系】(6H) 1　内分泌腺 1) 甲状腺 2) 上皮小体 3) 下垂体 4) 副腎 5) 松果体 6) 膵臓 2　ホルモンの作用様式 【各論：泌尿生殖器系】(6H) 1　泌尿器系の器官 1) 腎臓 2) 尿路 2　尿の生成と排泄の生理 1) 尿 2) 尿の生成 3) 腎クリアランス 4) 排尿 3　生殖器系の器官 1) 男性生殖器 2) 精巣の機能 【各論：女性生殖器系】(4H) 1　生殖器系の器官 1) 女性生殖器 2) 会陰 3) 乳腺 2　生殖の生理 1) 卵巣と子宮の機能 2) 乳汁分泌 3) 更年期と閉経		

【各論：感覚器系】(14H) Ⅰ　外皮（4H） 　1　皮膚の構造 　2　神経終末 　3　皮膚の付属器 　4　皮膚の働き Ⅱ　視覚器（4H） 　1　眼球の構造 　2　副眼器 　3　視覚 　　1）眼の遠近調節 　　2）眼の調節力 　　3）眼の屈折異常 　　4）瞳孔運動 　　5）残存と対比 　　6）視力と視野 　　7）網膜の性質 　　8）色覚 　　9）視覚伝導路 Ⅲ　嗅覚器、平衡聴覚器（4H） 　1　嗅覚器の構造 　2　平衡聴覚器の構造 　3　嗅覚 　4　平衡感覚 　5　聴覚 　　1）音の伝導機構 　　2）音の感覚 Ⅳ　歯・口腔（2H） 　1　口腔の構造 　　1）歯 　　2）舌 　　3）唾液腺 　2　口腔における消化 　3　味覚		
使用する図書 看護学入門１巻「人体のしくみと働き」メヂカルフレンド社 「目でみるからだのメカニズム」医学書院		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名　栄養	時間数　３５Ｈ （試験１Ｈ含む） 時期　１年前期	講義担当者 外部講師 （管理栄養士）

科目目標：健康的な食生活と栄養及び健康障害時の栄養について学ぶ。

単元目標

１．食生活及び栄養素とその吸収と代謝について学ぶ。

２．病院食及び食事療法について学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

ＤＰ４：基本的な日常生活ができる。

授業内容	方法	備考
単元 Ⅰ　食生活と栄養 　１　食生活と栄養の意義 　２　食生活について 　　１）食生活の変遷 　　２）食生活と健康の保持・増進 　　３）食生活と疾病予防 　３　食事摂取基準 　　１）日本人の食事摂取基準 　　２）エネルギーの食事摂取基準 　　３）栄養素の食事摂取基準 　　４）食事摂取基準の活用方法と留意点 　　５）たんぱく質の食事摂取基準 　　６）脂質の食事摂取基準 　　７）炭水化物の食事摂取基準 　　８）ビタミンの食事摂取基準 　　９）ミネラル・微量元素の食事摂取基準 　　10)電解質の食事摂取基準 　４　栄養素とその代謝 　　１）炭水化物 　　・糖質の種類 　　・でんぷん 　　・糖質の消化・吸収と代謝 　　・糖質の栄養価と食事摂取基準 　　２）脂質 　　・脂肪	講義	

・脂肪の消化・吸収と代謝 ・脂肪の栄養価と食事摂取基準 3）たんぱく質 ・アミノ酸 ・たんぱく質の種類 ・たんぱく質の消化・吸収と代謝 ・たんぱく質の栄養価と食事摂取基準 4）水とミネラル 5）ビタミン Ⅱ　食事療法 1　病院食 1）病院食の種類 2）病院食の決め方 3）食事の形態 4）病院食と配膳 5）食事と看護 6）栄養管理プログラム 2　食事療法 1）腎臓疾患の食事療法 2）循環器疾患の食事療法 3）代謝疾患の食事療法 4）消化器疾患の食事療法 5）急性熱性および感染症疾患の食事療法 6）貧血の食事療法 7）アレルギー性疾患の食事療法 8）小児疾患の食事療法 9）妊娠高血圧症候群の食事療法 10）手術と栄養 3　特殊栄養法 1）経管栄養 2）成分栄養 3）静脈栄養	調理実習	
使用する図書 看護学入門２巻「栄養/薬理」メヂカルフレンド社		評価方法 筆記試験 （中間・最終）
参考図書		
受講上の注意		

科目名　薬理Ⅰ	時間数　３５Ｈ （試験１Ｈ含む） 時期　１年前期	講義担当者 外部講師

科目目標：薬物の特徴、作用機序、生体への影響及び薬物の取り扱いについての基本的なことを学ぶ。
単元目標：
１．薬物の基礎知識を学ぶ。
２．薬物の作用機序を学ぶ。

DP との関連
ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。
ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

授業内容	方法	備考
【薬理Ⅰ】 Ⅰ　薬に関する基礎知識 　1　薬と身体 　2　薬物の種類と名称 　3　薬理作用 　4　薬物体内動態 　5　薬物の効果に影響を及ぼす因子 　6　薬に関する法律 　7　調剤と処方箋 Ⅱ　薬物の作用 　1　神経系に作用する薬 　　1）神経系に関する基礎知識 　　2）筋弛緩薬 　　3）自律神経系作用薬 　　4）麻酔薬 　　5）鎮痛薬 　　6）精神・神経機能に作用する薬物 　　7）神経変性疾患に用いられる薬物 　　8）片頭痛・慢性頭痛治療薬 　2　代謝系・内分泌系に作用する薬物 　　1）糖尿病治療薬 　　2）脂質異常症に用いられる薬物 　　3）高尿酸血症の治療薬 　　4）骨・カルシウム代謝薬 　　5）甲状腺疾患治療薬 　　6）性ホルモン製剤	講義	薬理Ⅰ35H（講義34H、試験1H）

7) そのほかの内分泌系薬物・代謝異常症に用いられる薬物 3 炎症・アレルギー・免疫に作用する薬物 1) 副腎皮質ホルモン・オータコイドと炎症反応 2) 副腎皮質ステロイド薬 3) 非ステロイド抗炎症薬（NSAIDs） 4) 抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 5) 免疫抑制薬 6) 抗リウマチ薬 4 循環器系に作用する薬物 1) 降圧薬 2) 狭心症治療薬 3) 抗不整脈薬 4) 心不全治療薬 5 血液・造血器官に作用する薬物 1) 造血薬（抗貧血薬） 2) 抗血栓薬 3) 止血薬 4) 輸液・栄養製剤、ビタミン・血液製剤 6 呼吸器系に作用する薬物 1) 気管支喘息治療薬 2) 気管支拡張薬 3) 去痰薬・鎮咳薬 4) 呼吸障害改善薬 7 消化器系に作用する薬物 1) 胃・十二指腸潰瘍治療薬 2) 消化管運動機能改善薬・制吐薬 3) 腸疾患治療薬 4) 下剤（瀉下薬） 5) 肝・胆道・膵弛緩治療薬 8 泌尿・生殖器系に作用する薬物 1) 利尿薬 2) そのほかの泌尿・生殖器作用薬 9 抗感染症薬 1) 抗感染症薬に関する基礎知識 2) 抗菌薬 3) 抗真菌役 4) 抗ウイルス薬 5) 抗原虫薬・抗寄生虫薬		

<table>
<tr><td colspan="2">10　消毒薬
1）消毒薬の分類と対象微生物
2）消毒薬の用法
11　抗悪性腫瘍薬
1）悪性腫瘍と薬物療法
2）化学療法薬
3）ホルモン療法薬
4）分子標的薬（分子標的治療薬）
5）免疫療法薬
12　漢方薬
1）漢方薬における証：虚実と寒熱
2）漢方使用上の注意点
3）漢方薬の適応疾患</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">使用する図書
看護学入門 2 巻「栄養/薬理」メヂカルフレンド社</td><td rowspan="3">評価方法
筆記試験</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講上の注意</td></tr>
</table>

科目名　薬理Ⅱ	時間数　３５Ｈ （試験１Ｈ含む） 時期　２年前期 ～後期	講義担当者 専任教員

単元目標：

１．疾患別に使用する薬物を理解し、看護の現場で注意すべきポイントについて学ぶ。

２．医療事故を起こさないための防止策を学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

授業内容	方法	備考
Ⅰ　薬物療法と看護　(20H) 1　安全な与薬に必要な知識 1) 看護職員が特に注意すべき情報 2) 与薬時に注意すべき項目 2　疾患別に使用する薬物と看護のポイント 1) 脳神経疾患 2) 代謝・内分泌疾患 3) 膠原病・感染症 4) 循環器疾患 5) 血液・造血器疾患 6) 呼吸器疾患 7) 消化器疾患 8) 腎・泌尿器疾患 9) 女性生殖器疾患 10) 悪性腫瘍 3　演習（事例でみる有害作用への対応） Ⅱ　薬物をめぐる医療安全　(15H) 1　薬物に関する医療事故 2　病院内で起こりやすい事故と防止策 3　外来・在宅で起こりやすい事故と防止策 4　演習（臨床現場で起こり得る事例）	講義 演習	薬物投与における安全の視点からの看護を学ぶ。

使用する図書	評価方法
看護学入門２巻「栄養/薬理」メヂカルフレンド社	筆記試験
参考図書 医療安全ワークブック，医学書院	
受講上の注意 薬理Ⅰで学習した内容を復習し、準備する。	

科目名　疾病の成り立ちⅠ	時間数　３０Ｈ 時期　１年前期	講義担当者 外部講師

科目目標

疾病の成り立ちと経過及び生体の反応について学ぶ。

微生物と感染の関係及び感染防止の対処法について学ぶ。

臓器・器官別に、疾病の病態を学ぶ。

単元目標

１．疾病の原因や成り立ちを学び生体反応についての基本的な知識を得る。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

授業内容	方法	備考
【総論１】(10H) 1　疾病の成り立ち 1)　病理学の範囲 2)　病理学総論と病理学各論 2　病気の種類とその要因 1)　病気の考え方 2)　病気の種類とその要因 3　先天異常 1)　先天異常の定義・部類・発生機序 2)　代表的疾患 4　退行性病変と進行性病変 1)　退行性病変 2)　進行性病変 【総論２】(10H) 1　循環障害 1)　循環とは 2)　循環障害 3)　局所循環障害①；基本的病態 4)　局所循環障害②；特別な型 5)　水および電解質代謝異常 6)　全身的な循環障害 7)　循環障害による代表的な疾患	講義	

<table>
<tr><td colspan="2">２　炎症
　1）炎症とは
　2）炎症の分類

【総論３】(10H)
１　腫瘍
　1）腫瘍とは
　2）腫瘍の種類
２　免疫
　1）免疫とは
　2）免疫機構による病変
３　臨床病理検査</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">使用する図書
看護学入門 3 巻「疾病の成り立ち」、看護学入門 8 巻「成人看護学Ⅰ」看護学入門 9 巻、「成人看護学Ⅱ」看護学入門 10 巻「成人看護学Ⅲ」メヂカルフレンド社</td><td rowspan="3">評価方法
筆記試験</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講上の注意</td></tr>
</table>

科目名　疾病の成り立ちⅡ	時間数　３５Ｈ 感染と予防Ⅰ　20H 感染と予防Ⅱ　15H （試験 1H 含む） 時期　１年前期	講義担当者 外部講師　（Ⅰ） 専任教員　（Ⅱ）

単元目標

１．微生物の中で、病原微生物法について、形態、培養方法、引き起こされる疾患、予防と治療法を学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

授業内容	方法	備考
感染と予防Ⅰ　(20H) １　微生物の基礎 ２　微生物と感染 ３　感染症法・検疫法 ４　細菌 ５　リケッチア・クラミジア ６　ウイルス ７　真菌 ８　原虫 ９　ブリオン 感染と予防Ⅱ　(15H) １　感染制御 ２　環境の微生物	講義	

使用する図書	評価方法
看護学入門３「疾病の成り立ち」メヂカルフレンド社	筆記試験
参考図書 看護学入門６　基礎看護Ⅱ　感染予防の技術	
受講上の注意 基礎看護技術Ⅶ　安全と感染予防の基礎知識として学習すること 基礎看護技術Ⅲ　環境　環境調整の基礎知識として学習すること	

科目名　疾病の成り立ちⅢ	時間数　４０Ｈ 時期　１年前期～後期	講義担当者 外部講師

単元目標

１．臓器・器官別に、疾病の症状、病態生理、検査について学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

授業内容	方法	備考
【疾病の成り立ちⅢ　各論】(40H) 1　呼吸器疾患（4H） 2　循環器疾患（4H） 3　消化器疾患（4H） 4　血液・造血器疾患（4H） 5　内分泌・代謝疾患（4H） 6　腎・泌尿器疾患（2H） 7　脳神経疾患（4H） 8　女性生殖器疾患・乳腺疾患（2H） 9　運動器疾患（4H） 10　感覚器疾患 1）皮膚疾患（2H） 2）眼疾患（2H） 3）耳疾患（2H） 4）歯・口腔疾患（2H）	講義	・成人看護Ⅰ～Ⅱと合わせて講義試験 ・成人看護Ⅰ～Ⅱと合わせたもので評価 ・血液造血器は人体のしくみと働きを合わせて講義評価

使用する図書

看護学入門 3 巻「疾病の成り立ち」、看護学入門 8 巻「成人看護学Ⅰ」看護学入門 9 巻、「成人看護学Ⅱ」看護学入門 10 巻「成人看護学Ⅲ」メヂカルフレンド社

参考図書

受講上の注意

評価方法

筆記試験

科目名　保健医療福祉のしくみ	時間数　２０Ｈ 時期　２年後期	講義担当者 内部講師 外部講師

科目のねらい・授業目標

健康的な生活を支える保健医療福祉のシステムについて理解する。

DP との関連

DP１　対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

DP７　チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

授業内容	方法	備考
１．医療のしくみ（６Ｈ） １）現代医療とヘルスケア ２）現代医療のアプローチとはなにか ３）患者学へのアプローチ ２．公衆衛生のしくみ（６Ｈ） １）公衆衛生とは ２）環境と生体 ３）疾病の予防 ４）人工と衛生統計 ５）保健活動 ３．社会福祉のしくみ（８Ｈ） １）現代社会における社会福祉の意味 ２）社会福祉の発展 ３）社会福祉制度と実施体制 ４）社会福祉の援助とソーシャルワーク ５）社会保険と関連制度 ６）これからの社会福祉	講義	

使用する図書

保健医療福祉のしくみ　看護と法律

参考図書

受講上の注意

評価方法

筆記試験

１、２、３

それぞれに試験

科目名　看護と法律	時間数　１５Ｈ （試験１Ｈ含む） 時期　２年後期	講義担当者 外部講師

授業目標

看護活動に関連する法規の概要を理解する。

DP との関連

DP７　チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

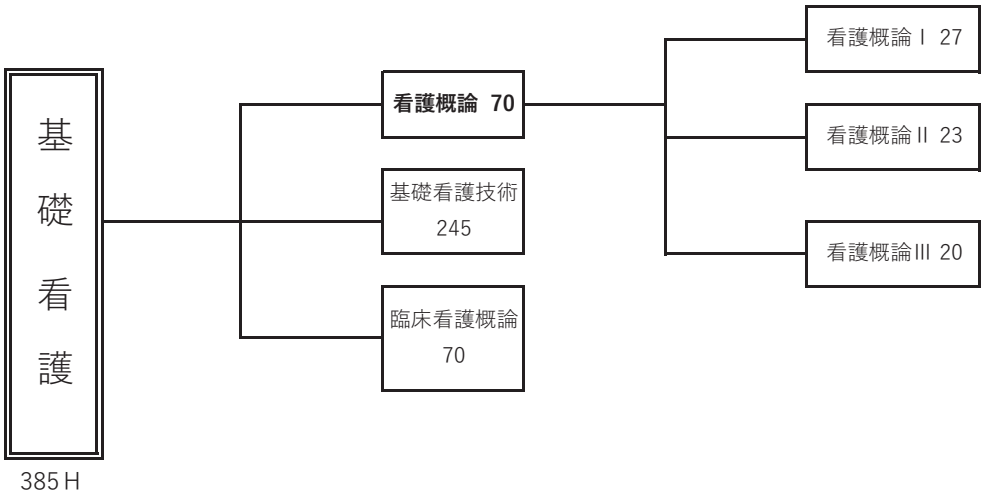
DP８　専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
１．生活者の健康に関する法規 ２．保健医療提供体制に関連する法規 ３．保健衛生対策の関連する法規 ４．医薬品・医療機器等に関連する法規 ５．保険・福祉等に関連する法規 ６．雇用・労働に関連する法規 ７．生活衛生・環境保全に関連する法規	講義	

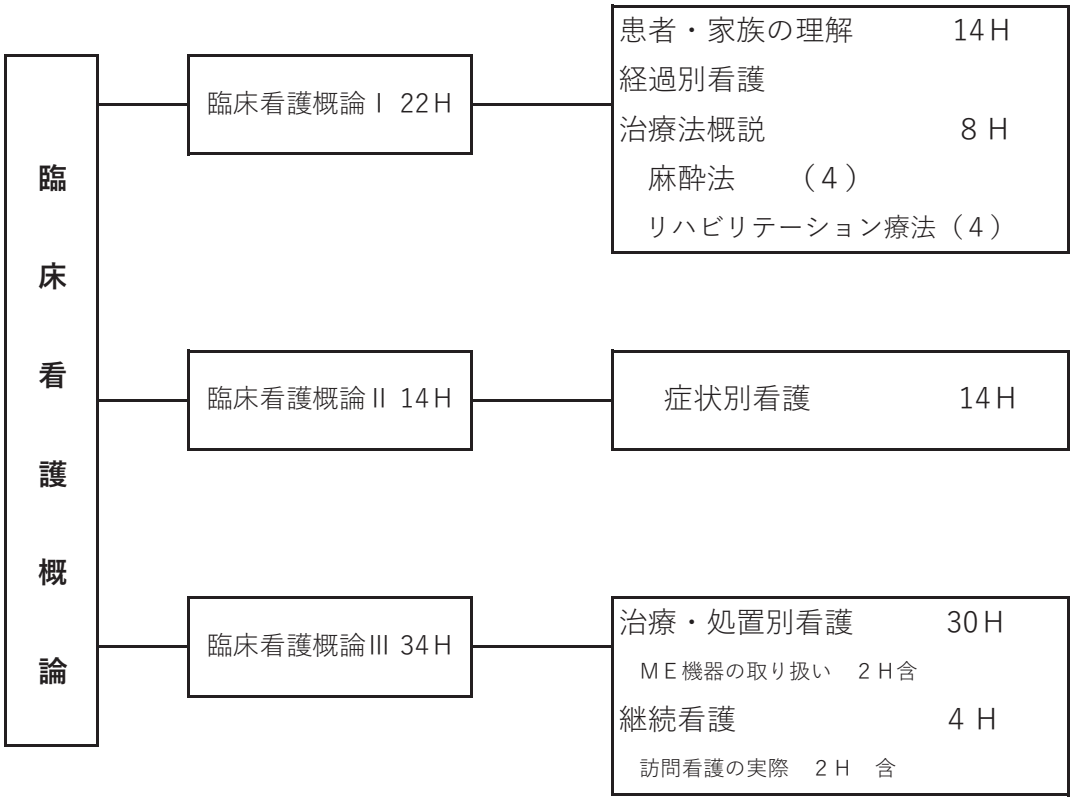
使用する図書	評価方法
保健医療福祉のしくみ　看護と法規	筆記試験
参考図書	
受講上の注意	

専門分野

基　礎　看　護



＊基礎看護技術の一覧は次のページ参照



○基礎看護技術　時間数　　+(2H)は技術試験

	科目	内容	時間数	ねらい
基礎看護技術	基礎看護技術Ⅰ 基本技術１ 34H	①　コミュニケーションとは ②　患者の心理とコミュニケーション ③　各状況における患者の理解 ④　看護過程	2 12 10 10	看護実践の基礎となる患者への対応の仕方、日常生活の援助技術、診療の補助技術が習得でき、その技術の意味づけを明確にして行うことができるように学ぶ。
	基礎看護技術Ⅱ 基本技術２ 34H	①　観察・記録と報告 ②　バイタルサイン ③　身体各部の計測	10 18+(2H) 4	「看護概論」「生活から見た人体」の学習内容を踏まえ、対象の生活を整えるために状態に合わせた看護技術を提供するための基本技術を学ぶ。
	基礎看護技術Ⅲ 日常生活援助１ 44H	①　環境 ②　活動と休息・姿勢と体位	20+(2H) 20+(2H)	
	基礎看護技術Ⅳ 日常生活援助２ 34H	衣服・清潔	32+(2H)	
	基礎看護技術Ⅴ 日常生活援助３ 34H	①　食事 ②　排泄	14 20	
	基礎看護技術Ⅵ 診療の補助 26H	①　診察の介助 主な検査とその介助 ②　罨法、吸入、吸引、洗浄、穿刺、包帯法	12 14	
	基礎看護技術Ⅶ 基本技術と診察の補助 39H	①　安全と感染予防 ②　与薬・輸血	14＋(2H) 23	
	計		235+(10H)	245H

科目名 看護概論Ⅰ（看護・人間・健康の理解）	時間数　２７Ｈ （試験１Ｈ含） 時期　１年前期	講義担当者 教務主任

科目のねらい・授業目標

保健医療福祉における看護の位置づけを明らかにしながら、看護の対象と目的について理解し看護の本質が明確になるように学ぶ。

１．健康に対する認識を深め、人間にとっての健康の価値について学ぶ。
２．看護の基本的な概念を理解し、看護についての認識を深める。
３．人間についての見方、考え方を学び、看護の対象としての人間について理解を深める。
４．看護の果たす役割と看護活動の概要を理解する。

DP との関連

ＤＰ１　対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。
ＤＰ７　チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。
ＤＰ８　専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
１．看護の概念 ２．看護の対象 ３．患者心理の理解 ４．健康の概念 ５．看護活動	講義 ＧＷ	１．基礎看護Ⅱ ・看護技術とは ・日常生活に対する援助を含める

使用する図書

医学書院　基礎看護（１）看護概論
メヂカルフレンド社　看護学入門５・６　基礎看護Ⅰ・Ⅱ
現代社　看護覚え書
日本看護協会出版会　看護の基本となるもの

参考図書

受講上の注意

評価方法

筆記テスト

科目名		講義担当者
看護概論Ⅱ （看護活動をとりまく環境・システム フィールドワーク地域の生活環境）	時間数　２３Ｈ （試験１Ｈ含） 時期　１年後期	教務主任

科目のねらい・授業目標

・組織における看護体制について学ぶ。
・地域における看護の在りようを知る。
・医療安全に関する基礎知識を学ぶ。
・職業としての看護師の業務と責任範囲について学ぶ。
・保健医療福祉がどのように看護にかかわっているかを学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１　対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。
ＤＰ７　チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

授業内容	方法	備考
１．病院組織と看護体制　（12H）	講義	
２．医療安全と看護		鞍月校下の探索
３．職業と看護		・暮らしに必要な店舗・施設
４．保健医療福祉のしくみと看護		
５．学校周辺の地域の探索の探索　（10H）	ＧＷ	・交通アクセス
地域で生活する人々がどのような生活環境で生活しているかを調査する。	発表	・環境 上記について グループで協力して調査
暮らしに必要な施設、店舗 地域の環境 交通状況　等		調査内容は 整理して発表 上記を今後の 地域と繋げた 対象の理解や 看護に活用していく

<table>
<tr><td>使用する図書
医学書院　基礎看護　（1）看護概論
メヂカルフレンド社　看護学入門５　基礎看護Ⅰ</td><td rowspan="3">評価方法

レポート
提出物
筆記テスト</td></tr>
<tr><td>参考図書</td></tr>
<tr><td>受講上の注意</td></tr>
</table>

科目名	時間数　２０Ｈ ①９Ｈ ②１１Ｈ （それぞれに試験１Ｈ含む） 時期 ①１年前期 ②１年後期	講義担当者 ①　専任教員 ②　外部講師
看護概論Ⅲ ①看護史 ②職業倫理		

科目のねらい・授業目標

・看護の変遷を学び、これからの看護の方向性について考える。

・看護職に求められる倫理観と行動についての指針を学ぶ。

DP との関連

ＤＰ５　対象の思いを真摯に受け止め誠実な対応ができる。

ＤＰ６　自己の課題に謙虚に取り組み、振り返りができる。

ＤＰ７　チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

ＤＰ８　専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
看護史　８Ｈ １．古代における医学と看護 ２．宗教的看護の時代 ３．日本における仏教と看護 ４．近代看護の確立 ５．現代の看護	個人ワーク ＧＷ 講義	
職業倫理　１０Ｈ １．医療における倫理 ２．看護職に求められる倫理 ３．看護の場で生じやすい倫理上の問題とその対応	講義	

使用する図書	評価方法
医学書院　基礎看護（１）看護概論 メヂカルフレンド社　看護学入門５　基礎看護Ｉ	レポート 筆記テスト
参考図書	
受講上の注意	

科目名　基礎看護技術Ⅰ（基本技術１） ①　コミュニケーションとは ②　患者の心理とコミュニケーション技術 ③　経過別・治療を受ける患者の心理	時間数　２４Ｈ ①　③１２Ｈ ②　　１２Ｈ 時期 ①　②１年前期 ③　　１年後期	講義担当者 ①　③専任教員 ②　　外部講師

科目のねらい・授業目標

①　看護におけるコミュニケーションとは何かを学び、対人技法としての自己のコミュニケーションを考える方法として、プロセスレコードについて学ぶ。

②　患者の心理の理解を踏まえ、患者の思いに近づくための方法としてのコミュニケーション技術を学ぶ。

③　各状況における患者の心理を学び、関わりの実際を考える。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

ＤＰ３：対象と信頼関係を築くための努力を行い必要なコミュニケーションがとれる。

ＤＰ５：対象の思いを真摯に受け止め誠実な対応ができる。

ＤＰ６：自己の課題に謙虚に取り組み、振り返りができる。

ＤＰ７：チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

ＤＰ８：専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
①　コミュニケーションとは ・コミュニケーションの意義、種類、構成要素 ・よりよいコミュニケーションの方法 ・コミュニケーション技術の検討：プロセスレコード	講義	プロセスレコードの書き方を理解する
②　患者の心理とコミュニケーション技術 １．人の心理と心の健康 ・患者の心理を理解するための基本 ・心の健康とは ・心のストレス ２．患者の心理の理解と支援 ・患者の心理の理解 ・患者の思いに近づくための方法 コミュニケーション技術、カウンセリング、心理療法 患者のもつニーズ、心理アセスメント ３．療養の場から見た患者の心理 ・入院患者の心理、在宅療養中の患者の心理	講義	

<table>
<tr><td>４．医療従事者の心理
・医療従事者の役割　看護師の心理

③ 経過別及び治療を受ける患者の心理
１．急性期にある患者の心理
２．回復期にある患者の心理
３．慢性期にある患者の心理
４．終末期にある患者の心理

１．手術を受ける患者の心理
２．化学療法を受ける患者の心理
３．透析療法を受ける患者の心理
４．リハビリテーションを受ける患者の心理</td><td>講義

事例検討</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">使用する図書
看護学入門６　基礎看護Ⅱ</td><td rowspan="3">評価方法
①＋③
②
それぞれに
筆記試験</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書
看護学入門５　基礎看護Ⅰ，　看護学入門７　基礎看護Ⅲ</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講上の注意
看護概論での学習内容確認
臨床看護概論Ⅰに繋げられるよう学習する</td></tr>
</table>

科目名　基礎看護技術Ⅰ（基本技術１） ④ 看護過程	時間数 10H 時期 １年後期	講義担当者 専任教員

単元目標

・看護過程の意義及び構成要素について学ぶ。

・看護過程展開における准看護師の役割を学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

ＤＰ３：対象と信頼関係を築くための努力を行い必要なコミュニケーションがとれる。

ＤＰ５：対象の思いを真摯に受け止め誠実な対応ができる。

ＤＰ６：自己の課題に謙虚に取り組み、振り返りができる。

ＤＰ７：チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

ＤＰ８：専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
１．看護過程とは １）看護過程の概念の変遷 ２）看護過程の利点 ３）看護過程の構成要素を相互関係 ４）看護過程の展開における准看護師の役割 ２．看護過程の各要素 １）アセスメント ２）看護計画 ３）実施 ４）評価 ３．看護過程の展開 ４．クリティカルパス	講義	

使用する図書 看護学入門６　基礎看護Ⅱ　メヂカルフレンド社	評価方法 筆記試験
参考図書	
受講上の注意	

科目名　基礎看護技術Ⅱ（基本技術２） ① 観察　記録と報告	時間数 10H 時期 １年後期	講義担当者 専任教員

単元目標

・看護における観察・記録・報告の意義を方法について学ぶ。

・患者の全体像を捉えるための、観察の視点の活用の仕方を学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

ＤＰ３：対象と信頼関係を築くための努力を行い必要なコミュニケーションがとれる。

ＤＰ５：対象の思いを真摯に受け止め誠実な対応ができる。

ＤＰ６：自己の課題に謙虚に取り組み、振り返りができる。

ＤＰ７：チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

ＤＰ８：専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
１．　観察とは １）観察の意義、目的、種類、用件 ２）観察の方法、視点 ３）観察技術を高める方法 ２．看護記録とは １）記録の意義、目的、種類、方法、基本、管理 ２）カルテ開示 ３）電子カルテ ４）記録内容を充実させる方略 ３．報告とは １）報告の意義、目的、種類、方法 ２）報告の技術を高める方法	講義 演習	

使用する図書	評価方法
看護学入門６　基礎看護Ⅱ　メヂカルフレンド社	筆記試験
参考図書	
受講上の注意	

科目名　基礎看護技術Ⅱ（基本技術２） ②バイタルサイン ③身体各部の計測	時間数　24H ②　18＋2H ③　４H 時期　１年後期	講義担当者 専任教員

単元目標

②　バイタルサインの意義を学ぶ。

意識・呼吸・体温・脈拍・血圧の基礎知識を学ぶ。

呼吸・体温・脈拍・血圧を正確に測定できる。

②　身体各部の計測

対象の身体状態を客観的に捉える方法を学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

ＤＰ３：対象者と信頼関係を築くための努力を行い必要なコミュニケーションがとれる。

ＤＰ４：基本的な日常生活援助ができる。

ＤＰ５：対象の思いを真摯に受け止め誠実な対応ができる。

ＤＰ６：自己の課題に謙虚に取り組み、振り返りができる。

ＤＰ７：チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

ＤＰ８：専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
②バイタルサイン １．バイタルサインとは ２．意識 　１）意識と意識障害 　２）意識の観察 ３．呼吸 　１）呼吸の生理と異常 　２）呼吸測定 ４．脈拍 　１）脈拍の生理と異常 　２）脈拍測定 ５．血圧 　１）血圧の生理と異常 　２）血圧測定 ６．体温 　１）体温の生理と異常 　２）体温測定	講義 学内演習 ・測定（呼吸・体温・脈拍・血圧）	人体のしくみと働きⅡ（循環器、呼吸器）、人体のしくみと働きⅢ（脳神経）

<table>
<tr><td>③身体各部の計測

身体各部の計測
１）計測の目的
２）計測の種類
３）計測の方法</td><td>講義

学内演習
身体測定
（身長、体重
握力、腹囲）</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">使用する図書
基礎看護Ⅱ基礎看護技術
看護がみえる vol.　１基礎看護技術
看護がみえる vol.　２臨床看護技術</td><td rowspan="3">評価方法
筆記試験
60%
技術試験２Ｈ
40%</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講上の注意
フィジカルアセスメントの視点を踏まえた測定であることを理解する</td></tr>
</table>

科目名　基礎看護技術Ⅲ（日常生活援助１） ①環境	時間数　２２Ｈ 20＋2Ｈ 時期 １年前期	講義担当者 専任教員

単元目標

・健康にとって環境調整の意義を理解し、環境調整の方法を学ぶ。

・患者が身体的・精神的に安全安楽に生活できるように病床を整えることができる。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

ＤＰ３：対象と信頼関係を築くための努力を行い必要なコミュニケーションがとれる。

ＤＰ４：基本的な日常生活援助ができる。

ＤＰ５：対象の思いを真摯に受け止め誠実な対応ができる。

ＤＰ６：自己の課題に謙虚に取り組み、振り返りができる。

ＤＰ７：チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

ＤＰ８：専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
１．人間の健康と環境調整の意義 １）環境とは ２）住環境 ２．患者を取り巻く環境の調整 ３．病院・病床における生活環境 １）病院 ２）病棟 ３）病床	講義	
４．病床の整備 １）ベッドメーキング ２）日常の病床の整理 ３）臥床患者の環境調整 (1)シーツ交換 (2)環境整備	学内演習 ・ベッドメーキング、臥床患者のシーツ交換	

使用する図書

看護学入門　６　基礎看護Ⅱ　メヂカルフレンド社

看護がみえる　vol.１　基礎看護技術

参考図書　　看護覚え書

受講上の注意

評価方法

筆記試験　60％

技術試験　40％

科目名　基礎看護技術Ⅲ（日常生活援助１） ② 活動と休息　姿勢と体位	時間数　２２Ｈ 20＋2H 時期 １年前期	講義担当者 専任教員

単元目標

・活動と休息の基礎知識と援助方法を学ぶ。

・安楽な姿勢と体位・安全な移動の基礎知識と援助技術を学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

ＤＰ３：対象と信頼関係を築くための努力を行い必要なコミュニケーションがとれる。

ＤＰ４：基本的な日常生活援助ができる。

ＤＰ５：対象の思いを真摯に受け止め誠実な対応ができる。

ＤＰ６：自己の課題に謙虚に取り組み、振り返りができる。

ＤＰ７：チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

ＤＰ８：専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
【活動と休息】 １．活動と休息 　１）活動の意義　　３）患者の運動 　２）運動の重要性　　４）精神的活動 ２．安静 　１）安静の意義　　３）安静の種類 　２）安静の目的　　４）安静への援助 ３．睡眠 　１）睡眠と覚醒のリズム、睡眠時間 　２）睡眠の分類 　３）睡眠中の声帯の変化 　４）睡眠の型 　５）睡眠を妨げる因子 　６）安眠への援助	講義	
【姿勢と体位】 １．姿勢の種類 ２．主な体位 ３．看護におけるボディメカニクス 　１）ボディメカニクスの目的	講義	

2）基本的姿勢の原則及び注意事項 4．体位変換 1）仰臥位から側臥位 2）仰臥位か端座位 3）水平移動、上方移動 5．移動・移送 1）ベッドからの移動（車椅子、ストレッチャー） 2）車椅子による移送 3）ストレッチャー（輸送車）による移送 4）歩行補助具を利用した歩行介助（杖、歩行器） 6．安楽 1）患者の安楽 2）褥瘡の予防 (1) 褥瘡発生のメカニズム (2) 褥瘡の予防法 (3) 褥瘡の手当	学内演習 ・体位変換、安楽な体位の工夫 学内演習 ・移動・移送：車椅子、ストレッチャー ・歩行介助：杖歩行、歩行器	
使用する図書 看護学入門６　基礎看護Ⅱ　メヂカルフレンド社 看護がみえる　vol．1　基礎看護技術		評価方法 筆記試験 60% 技術試験 40%
参考図書		
受講上の注意		

科目名　基礎看護技術Ⅳ（日常生活援助２） 衣服・清潔	時間数　３４Ｈ 32＋2H 時期 １年前期～１年後期	講義担当者 専任教員

単元目標

・衣服に関する基礎知識を学び、寝衣交換の基本的な援助技術ができる。

・身体の清潔に関する基礎知識を学び、基本的な援助技術ができる。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

ＤＰ３：対象と信頼関係を築くための努力を行い必要なコミュニケーションがとれる。

ＤＰ４：基本的な日常生活援助ができる。

ＤＰ５：対象の思いを真摯に受け止め誠実な対応ができる。

ＤＰ６：自己の課題に謙虚に取り組み、振り返りができる。

ＤＰ７：チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

ＤＰ８：専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
【衣服】		
１．衣服の機能	講義	
１）保健衛生的機能		
２）社会生活上の機能		
３）健康と衣服		
４）患者の寝衣（病衣）		
２．寝衣交換	学内演習	
１）注意事項	・寝衣交換	
２）病衣交換		
【清潔】		
１．清潔の意義	講義	
２．口腔の清潔	学内演習	
１）口腔の清潔の意義、目的	・口腔の清潔法	
２）口腔の清潔の方法		
３．皮膚の清潔	学内演習	
１）皮膚の構造と機能	・全身清拭	
２）入浴の目的と注意事項	・足浴	
３）シャワー浴	・陰部洗浄	
４）清拭		

<table>
<tr><td>(1) 全身清拭
(2) 部分清拭
5）部分浴
4．頭皮と頭髪の清潔
1）毛髪の構造と機能
2）臥床患者の洗髪
3）結髪法
5．朝夕のケア</td><td>学内演習
・ケリーパッドによる洗髪演習
・洗髪車の取り扱い</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">使用する図書
看護学入門６　基礎看護Ⅱ　　メヂカルフレンド社
看護がみえる　vol．1　基礎看護技術</td><td rowspan="3">評価方法
筆記試験
60%
技術試験
40%</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講上の注意</td></tr>
</table>

科目名　基礎看護技術Ⅴ（日常生活援助３） ①　食事	時間数　１４Ｈ 時期　１年前期	講義担当者 専任教員

単元目標

食事に関する基礎知識と援助技術を学ぶ。

DP の関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。
ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。
ＤＰ３：対象者と信頼関係を築くための努力を行い必要なコミュニケーションがとれる。
ＤＰ４：基本的な日常生活援助ができる。
ＤＰ５：対象の思いを真摯に受け止め誠実な対応ができる。
ＤＰ６：自己の課題に謙虚に取り組み、振り返りができる。
ＤＰ７：チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。
ＤＰ８：専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
１．栄養と食事 　１）食べることの意義 　２）よい食事の条件 　３）正しい食習慣 　４）食欲 　５）食欲不振 　６）食欲亢進 ２．患者と食生活 　１）援助の意義 　２）病人食の分類 ３．食事援助の方法 　１）食欲増進のための援助 　２）援助に際し留意すること（窒息、誤嚥予防も含む） 　３）配膳の準備 　４）自助具 ４．食事介助の方法 　１）自分で食べられない患者の場合 　２）自分で食べられる患者の場合 ５．経管栄養法 　１）経管栄養法の意義 　２）経管栄養法の実際	講義 学内演習 ・臥床患者の食事介助 ・経管栄養法	

<table>
<tr><td colspan="2">（１）　口腔・鼻腔からチューブ
（２）　胃瘻または腸瘻からのチューブ
（３）　経管栄養注入の実際
６．中心静脈栄養法
１）中心静脈栄養法の意義
２）中心静脈栄養法の実際</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">使用する図書
看護学入門６　基礎看護Ⅱ
看護がみえる vol．１基礎看護技術
看護がみえる vol．２臨床看護技術</td><td rowspan="3">評価方法
筆記試験</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講上の注意</td></tr>
</table>

科目名　基礎看護技術Ⅴ（日常生活援助３） ②排泄	時間数　２０Ｈ 時期　１年後期	講義担当者 専任教員

単元目標

排泄に関する基礎知識と援助技術を学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。
ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。
ＤＰ３：対象者と信頼関係を築くための努力を行い必要なコミュニケーションがとれる。
ＤＰ４：基本的な日常生活援助ができる。
ＤＰ５：対象の思いを真摯に受け止め誠実な対応ができる。
ＤＰ６：自己の課題に謙虚に取り組み、振り返りができる。
ＤＰ７：チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。
ＤＰ８：専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
１．排泄とは ２．排便 　１）正常な排便の状態 　・排便回数、１日の量、性状 　２）排便障害 　・便秘、下痢、裏急後重、失禁 ３．排便の援助 　１）援助の意義 　２）よい排便習慣 　３）注意事項 　４）便器の挿入 　５）排便障害のある患者の援助 ４．排尿 　１）正常な排尿の状態 　・排尿回数、１日の量、性状 　２）排尿障害 　・尿意頻数、尿線の異常、排尿困難、尿閉、尿失禁 ５．排尿の援助 　１）援助の意義 　２）よい排尿習慣 　３）尿器の使用	講義 学内演習 ・床上排泄（便器の挿入、オムツ交換） ・グリセリン浣腸 ・一時的導尿、膀胱留置カテーテルの挿入と管理 ・摘便	導尿は安全と感染予防の無菌操作が終了後であること。

<table>
<tr><td>６．排尿障害のある患者の援助
７．浣腸
　１）目的と原則
　２）催下浣腸
８．導尿
　１）目的と原則
　２）方法
　３）留置カテーテル
９．オムツ・ポータブルトイレ使用時の援助</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">使用する図書
看護学入門６　基礎看護Ⅱ
看護がみえる vol．１基礎看護技術
看護がみえる vol．２臨床看護技術</td><td rowspan="3">評価方法
筆記試験</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講上の注意</td></tr>
</table>

科目名　基礎看護技術Ⅵ（診療の補助） ①主な検査、画像診断のための各種検査法	時間数 １２Ｈ 時期 1年後期	講義担当者 専任教員

科目のねらい・授業目標

診療・検査が安全安楽に行われる援助方法を学ぶ。

DPとの関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。
ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。
ＤＰ３：対象者と信頼関係を築くための努力を行い必要なコミュニケーションがとれる。
ＤＰ４：基本的な日常生活援助ができる。
ＤＰ５：対象の思いを真摯に受け止め誠実な対応ができる。
ＤＰ６：自己の課題に謙虚に取り組み、振り返りができる。
ＤＰ７：チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。
ＤＰ８：専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
１．診療の介助	講義	
１）診察の目的、種類		
２）診察の準備、介助		
２．主な検査とその介助		
１）検体検査		
２）検査の介助		
３）主な検体採取法		
・尿検査		
・便検査		
・喀痰検査		
・咽頭分泌物検査		
・血液検査	学内演習	
・試験紙法による検査	採血	
４）画像診断のための検査	血糖測定	
・単純Ｘ線検査法		
・造影検査		
・Ｘ線ＣＴ検査		
・磁気共鳴画像（ＭＲＩ）		
・超音波検査		
・内視鏡検査		

<table>
<tr><td>使用する図書：看護学入門６　基礎看護Ⅱ（メヂカルフレンド社）
看護がみえる vol.　２臨床看護技術</td><td rowspan="3">評価方法
筆記試験</td></tr>
<tr><td>参考図書</td></tr>
<tr><td>受講上の注意</td></tr>
</table>

科目名　基礎看護技術Ⅵ（診療の補助） ②罨法・吸入・吸引・洗浄・穿刺・包帯法	時間数： １４Ｈ 時期： １年後期	講義担当者： 専任教員

単元目標：

１．基本的な治療・処置時の援助の意義と看護師の役割を学ぶ。

２．安全安楽な治療・処置の援助方法について学ぶ。

ＤＰとの関連：

ＤＰ１．対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２．対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

ＤＰ３．対象者と信頼関係を築くための努力を行い必要なコミュニケーションがとれる。

ＤＰ４．基本的な日常生活援助ができる。

ＤＰ５．対象の思いを真摯に受け止め誠実な対応ができる。

ＤＰ６．自己の課題に謙虚に取り組み、振り返りができる。

ＤＰ７．チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

ＤＰ８．専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
１．罨法 １）罨法の目的と種類	講義 学内演習：冷罨法、温罨法	講義では、基礎看護技術ＤＶＤシリーズ等を用いて教授する。
２．吸入 １）噴霧吸入 ２）薬液噴霧 ３）酸素吸入	講義 学内演習：酸素吸入、酸素ボンベの取り扱い方、ネブライザーを用いた気道内加湿	
３．吸引 １）吸引の目的と種類 ２）一時的吸引法 ３）持続的吸引法	講義 学内演習：口鼻腔吸引 演習：気管内吸引	
４．洗浄 １）胃洗浄 ２）膀胱洗浄	講義	

<table>
<tr><td>５．穿刺
１）穿刺の目的と種類
２）胸腔穿刺
３）腹腔穿刺
４）腰椎穿刺
５）骨髄穿刺

６．創傷管理と包帯法
１）創傷の処置
２）包帯法
３）巻軸帯
４）三角巾</td><td>講義

講義
学内演習：
包帯法</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">使用する図書：看護学入門６　基礎看護Ⅱ　（メヂカルフレンド社）
看護がみえる vol．１　基礎看護技術
看護がみえる vol．２　臨床看護技術</td><td rowspan="3">評価方法：
筆記試験</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書：</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講上の注意：</td></tr>
</table>

科目名　基礎看護技術Ⅶ（基本技術） ①　安全と感染予防	時間数　１６Ｈ 14＋2Ｈ 時期 １年前期～1 年後期	講義担当者 専任教員

単元目標

・看護における安全の重要性を認識し、感染予防と事故防止の技術を学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

ＤＰ５：対象の思いを真摯に受け止め誠実な対応ができる。

ＤＰ６：自己の課題に謙虚に取り組み、振り返りができる。

ＤＰ７：チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

ＤＰ８：専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
１．看護における安全とは ２．病院でおける事故とその対策 １）病院における事故 ２）病院における事故防止対策 ３）災害時の心得 ３．患者の安全を守る技術 １）事故の予防 ２）抑制法 ４．感染予防 １）スタンダードプリコーション ２）病原体の除去 ３）侵入経路の遮断 ４）院内感染予防対策	講義 学内演習 （手洗い、擦式手指消毒法、滅菌手袋の着脱、ガウンテクニック、無菌操作）	

使用する図書

看護学入門　６　基礎看護Ⅱ　メヂカルフレンド社

看護がみえる vol．１　基礎看護技術

看護がみえる vol．２　臨床看護技術

参考図書

受講上の注意

評価方法

筆記試験　60％

技術試験　40％

科目名　基礎看護技術Ⅶ（診療の補助） ②与薬・輸血	時間数：２３Ｈ （試験１Ｈ含む） 時期：１年後期	講義担当者： 専任教員

単元目標：

１．与薬の意義と看護師の役割について学ぶ。
２．安全安楽な与薬の援助方法について学ぶ。
３．安全安楽な輸血の援助方法について学ぶ。

ＤＰとの関連：

ＤＰ１．対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。
ＤＰ２．対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。
ＤＰ３．対象者と信頼関係を築くための努力を行い必要なコミュニケーションがとれる。
ＤＰ４．基本的な日常生活援助ができる。
ＤＰ５．対象の思いを真摯に受け止め誠実な対応ができる。
ＤＰ６．自己の課題に謙虚に取り組み、振り返りができる。
ＤＰ７．チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。
ＤＰ８．専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
１．与薬の基本原則 ２．与薬法 １）経口的与薬 ２）直腸内与薬 ３）経皮吸収パッチ ４）点眼 ５）点耳 ６）点鼻 ７）吸入 ３．注射法 １）皮下注射 ２）筋肉内注射 ３）皮内注射 ４）静脈内注射 ５）点滴静脈内注射 ４．輸血 １）輸血療法とは ２）援助の基礎知識 ３）原則 ４）援助の実際	講義 学内演習：座薬の挿入、皮下注射、筋肉内注射 演習：末梢静脈路の確保	医療事故となりうる内容を含めて教授する。 輸血については血液センターの見学で学習を深める。

<table>
<tr><td>使用する図書：看護学入門６　基礎看護Ⅱ　（メヂカルフレンド社）
看護がみえる vol.　１　基礎看護技術
看護がみえる vol.　２　臨床看護技術</td><td rowspan="3">評価方法：
筆記試験</td></tr>
<tr><td>参考図書：</td></tr>
<tr><td>受講上の注意：</td></tr>
</table>

科目名 臨 床 看 護 概 論 【 臨 床 看 護 概 論 Ⅰ 】	時間数：２２Ｈ 時期：１年後期	講義担当者： 外部講師（Ⅲ） 専任教員（Ⅰ～Ⅱ）

科目目標：健康障害をもつ対象を理解し、状態に応じた看護の役割と方法を学ぶ。

単元目標：

１．健康障害が患者と家族に及ぼす影響について学ぶ。

２．健康障害の経過の特徴を理解し、その経過別の状態に応じた看護について学ぶ。

３．麻酔法の基本を理解し、麻酔による生体の影響や回復過程について学ぶ。

４．理学療法、作業療法、言語療法の目的と方法について学ぶ。

ＤＰとの関連：

ＤＰ１．対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２．対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

ＤＰ３．対象者と信頼関係を築くための努力を行い必要なコミュニケーションがとれる。

ＤＰ４．基本的な日常生活援助ができる。

ＤＰ５．対象の思いを真摯に受け止め誠実な対応ができる。

ＤＰ６．自己の課題に謙虚に取り組み、振り返りができる。

ＤＰ７．チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

ＤＰ８．専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
Ⅰ．臨床看護活動と患者・家族の理解　（２Ｈ）	講義	
１．臨床看護の特徴		
１）臨床看護活動とは		
２）臨床看護の場		
２．患者・家族の理解		
１）患者の理解		
２）家族の理解		
Ⅱ．健康障害の経過に伴う看護　（12Ｈ）	講義	
１．健康障害の経過と看護		
２．急性期にある患者の看護		
３．回復期・リハビリテーション期にある患者の看護		
４．慢性期にある患者の看護		
５．終末期（人生の最終段階）にある患者の看護		
６．危篤時～死後の看護		

<table>
<tr><td>Ⅲ．治療法概説
１．麻酔法　（４Ｈ）
１）麻酔の種類とその施行に伴う診療
２）回復室での術後合併症
２．リハビリテーション療法　（４Ｈ）
１）リハビリテーションの目的と特徴
２）理学療法
３）作業療法
４）言語聴覚療法</td><td>講義

講義</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">使用する図書：看護学入門７巻「基礎看護Ⅲ：臨床看護概論/特論：治療法概説」メヂカルフレンド社</td><td rowspan="3">評価方法：
筆記試験</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書：</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講上の注意：</td></tr>
</table>

科目名 臨 床 看 護 概 論 【 臨 床 看 護 概 論 Ⅱ 】	時間数：１４Ｈ 時期：２年前期	講義担当者： 専任教員

科目目標：健康障害をもつ対象を理解し、状態に応じた看護の役割と方法を学ぶ。

単元目標：

１．健康障害が患者と家族に及ぼす影響について学ぶ。

２．主な症状の病態生理を理解し、その症状に応じた看護の方法を学ぶ。

ＤＰとの関連：

ＤＰ１．対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２．対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

ＤＰ３．対象者と信頼関係を築くための努力を行い必要なコミュニケーションがとれる。

ＤＰ４．基本的な日常生活援助ができる。

ＤＰ５．対象の思いを真摯に受け止め誠実な対応ができる。

ＤＰ６．自己の課題に謙虚に取り組み、振り返りができる。

ＤＰ７．チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

ＤＰ８．専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
Ⅰ．主な症状に対する看護 １．貧血のある患者の看護 ２．出血傾向のある患者の看護 ３．ショック状態の患者の看護 ４．咳嗽・喀痰のある患者の看護 ５．呼吸困難のある患者の看護 ６．悪心・嘔吐のある患者の看護 ７．嚥下困難のある患者の看護 ８．排尿障害のある患者の看護 ９．排便障害のある患者の看護 10．黄疸のある患者の看護 11．脱水のある患者の看護 12．浮腫のある患者の看護 13．発熱のある患者の看護 14．痛みのある患者の看護 15．感覚障害のある患者の看護 16．意識障害のある患者の看護 17．不安・抑うつのある患者の看護	講義	主な症状に対する看護については、患者へのケアを中心に教授する。
使用する図書：看護学入門７巻「基礎看護Ⅲ：臨床看護概論/特論：治療法概説」メヂカルフレンド社		評価方法： 筆記試験

参考図書：	
受講上の注意：	

科目名 臨 床 看 護 概 論 【 臨 床 看 護 概 論 Ⅲ 】	時間数：３４Ｈ 時期：２年前期 ～後期 外部講師（2h×２）	講義担当者： 外部講師（ＭＥ器機 訪問看護） 専任教員

単元目標：

１．臨床で行われる治療・処置の特徴と、それに伴う看護について学ぶ。

２．継続看護の意義と概要を学ぶ。

ＤＰとの関連：

ＤＰ１．対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２．対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

ＤＰ３．対象者と信頼関係を築くための努力を行い必要なコミュニケーションがとれる。

ＤＰ４．基本的な日常生活援助ができる。

ＤＰ５．対象の思いを真摯に受け止め誠実な対応ができる。

ＤＰ６．自己の課題に謙虚に取り組み、振り返りができる。

ＤＰ７．チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

ＤＰ８．専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
Ⅰ．治療・処置に伴う看護　(30H)		治療を受けながら生活する患者をどのように支援するかを教授する。
１．安静療法を受ける患者の看護	講義（事例を用いて展開する）	
１）安静療法の目的と意義		
２）安静療法の特徴		
３）安静療法が患者の生活に与える影響		
４）安静療法を受ける患者への援助		
２．食事療法を受ける患者の看護	講義（事例を用いて展開する）	食生活と栄養 治療法概説/食事療法
１）食事療法の目的と意義		
２）食事療法の特徴		
３）食事療法が患者の生活に与える影響		
４）食事療法を受ける患者への援助		
３．薬物療法を受ける患者の看護	講義（事例を用いて展開する）	薬理 治療法概説/薬物療法
１）薬物療法の目的と意義		
２）薬物療法の特徴		
３）薬物療法が患者の生活に与える影響		
４）薬物療法を受ける患者への援助		
４．輸液療法を受ける患者の看護	講義 輸液ポンプのデモンストレーション	治療法概説/輸液療法
１）輸液療法の目的と意義		
２）輸液療法の特徴		
３）輸液療法が患者の生活に与える影響		
４）輸液療法を受ける患者への援助		

５．放射線療法を受ける患者の看護 １）放射線療法の目的と意義 ２）放射線療法の特徴 ３）放射線療法が患者の生活に与える影響 ４）放射線療法を受ける患者への援助	講義	治療法概説/放射線療法
６．手術療法を受ける患者の看護 １）手術療法の目的と意義 ２）術前患者の看護 ３）術中患者の看護 ４）術後患者の看護	講義（事例を用いて展開する） 演習：術後一病日目の観察	治療法概説/手術療法
７．救急処置を受ける患者の看護 １）救急処置の目的と意義 ２）救急処置の方法 ３）救急患者・家族の特徴と援助 ４）ショックへの対応 ５）出血に対する処置 ６）ＭＥ機器への対応　（外部講師２Ｈ） ７）救急医療体制	講義 演習	一次救命処置は kanazawa ― fa-suto 講習受講（AM６日） 又は学内演習
８．ＩＣＵの看護 １）ＩＣＵ看護の目的と意義 ２）ＩＣＵ看護の特徴 ３）ＩＣＵに入室する患者・家族の理解 ４）ＩＣＵ看護の実際	講義	
Ⅱ．継続看護　（４Ｈ） １．継続看護 ２．多様な場における看護 ３．地域包括ケアシステム ４．訪問看護の実際（２Ｈ）	講義 訪問看護師の講義	地域包括ケアシステムの実際については老年看護Ⅱで説明を受ける
使用する図書：看護学入門７巻「基礎看護Ⅲ：臨床看護概論/特論：治療法概説」メヂカルフレンド社		評価方法： 筆記試験
参考図書：		
受講上の注意：		

成　人　看　護

成人看護

成人看護Ⅰ　３０Ｈ

疾患	人体のしくみと働き	疾病の成り立ち	講義時間
各系統別疾患			
・脳神経系４Ｈ		４Ｈ	**８Ｈ**
・筋骨格系８Ｈ		４Ｈ	**１２Ｈ**
・血液造血器免疫系６Ｈ			**６Ｈ**
・循環器系６Ｈ		４Ｈ	**１０Ｈ**
・呼吸器系６Ｈ		４Ｈ	**１０Ｈ**

成人看護Ⅱ　３４Ｈ

各系統別疾患			
・消化器系８Ｈ		４Ｈ	**１２Ｈ**
・内分泌代謝系４Ｈ	６Ｈ	４Ｈ	**１４Ｈ**
・腎泌尿器系　４Ｈ	６Ｈ	２Ｈ	**１２Ｈ**
・女性生殖器系６Ｈ	４Ｈ	２Ｈ	**１２Ｈ**
・皮膚科　２Ｈ	４Ｈ	２Ｈ	**８Ｈ**
・眼科　４Ｈ	４Ｈ	２Ｈ	**１０Ｈ**
・平衡聴覚器系４Ｈ	４Ｈ	２Ｈ	**１０Ｈ**
・歯科口腔２Ｈ	２Ｈ	２Ｈ	**６Ｈ**

成人看護Ⅲ　３６Ｈ

・成人看護概論８Ｈ	
各系統別看護	
・脳神経系	8H
・筋骨格器系	8H
・血液造血器系	6H
・女性生殖器系	6H

成人看護Ⅳ　４０Ｈ

各系統別看護	
・呼吸器系	6H
・循環器系	6H
・消化器系	10H
・内群筆代謝系	6H
・腎泌尿器系	6H
・皮膚科	2H
・眼科	2H
・平衡聴覚器系	2H

疾患の講義：疾病の成り立ち　科目により、人体のしくみと働きを合わせて講義

試験　　：講義内容に合わせて実施　１Ｈ

科目名　成人看護 【成人看護Ⅰ】	時間数　１４０Ｈ 【各系統別疾患３０Ｈ】 脳神経系（４Ｈ）・筋骨格系（８Ｈ） 血液造血器・免疫系（６Ｈ） 循環器系（６Ｈ）・呼吸器系（６Ｈ） 時期　１年前期～後期	講義担当者 外部講師

科目目標

１．成人期にある対象の特徴を身体的・心理的・社会的側面から理解する。

２．成人期にある対象の健康上の諸問題について知り、その状況に応じた看護を理解する。

３．成人期にある対象に必要な看護が実践できる基礎的能力を養う。

単元目標

主な症状、病態生理および主要な疾患とそれらの治療法の概要について学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

授業内容	方法	備考
【各系統別疾患　脳神経系】 １　構造と機能 １）中枢神経系の構造と機能 ２）末梢神経系の構造と機能 ２　主な症状と病態生理 １）バイタルサインの変調　９）言語障害 ２）意識障害　10）失認 ３）認知症など知的機能障害　11）失行 ４）頭痛　12）運動麻痺 ５）頭蓋内圧亢進症状　13）運動失調 ６）髄膜刺激症状　14）感覚障害 ７）眩暈　15）不随意運動 ８）痙攣 ３　主な検査 １）神経学的診察、 ２）臨床検査 ４　主な治療・処置 １）薬物治療 ２）放射線手術 ３）血管内治療 ４）外科的治療	講義	

5　主な疾患とその治療 1）脳・神経疾患 認知症を症状とする疾患、脳腫瘍、脳血管障害、 神経系炎症性疾患、神経系変性疾患・遺伝性疾患、 脱髄疾患、頭部外傷、髄液循環障害、末梢神経障害、 脊椎・脊髄疾患 2）筋疾患 3）発作性疾患 4）中毒性疾患 【各系統別疾患　筋骨格系】 1　構造と機能 2　診察と計測 3　主な症状と病態生理 1）関節運動の異常　4）跛行 2）疼痛　5）変形 3）腫脹、皮膚の変化 4　主な検査 5　主な治療の種類と適応 1）変形矯正法　5）理学療法 2）絆創膏固定、テーピング、固定帯、副子(シーネ)固定　6）義肢と装具 7）薬物療法 3）ギプス包帯　8）注射療法 4）牽引法　9）手術療法 6　主な疾患とその治療 1）形態異常　7）骨の系統疾患 2）骨・関節の外傷　8）代謝性骨疾患 3）そのほかの外傷　9）腫瘍、腫瘍性疾患 4）骨・関節の感染症　10）神経系疾患 5）関節リウマチとその類似疾患　11）運動機能の低下 6）循環障害、阻血性壊死性疾患 【各系統別疾患　血液造血器・免疫系】 1　構造と機能 1）血液 2）造血器 2　主な症状と病態生理 1）貧血		

２）発熱	５）無顆粒球症		
３）出血傾向	６）そのほかの症状		
４）リンパ節・脾臓の腫脹			
３　主な検査			
４　主な疾患とその治療			
１）貧血	４）そのほかの血液疾患		膠原病を含む
２）造血器腫瘍	５）膠原病		
３）出血性疾患・凝固異常症			
【各系統別疾患　循環器系】			
１　構造と機能			
１）心血管系の構造と機能			
２）心臓の構造と機能			
２　主な症状と病態生理			
１）動悸	６）失神発作、めまい		
２）息切れ・呼吸困難	７）間欠性跛行		
３）浮腫	８）レイノー現象		
４）胸痛	９）不整脈		
５）チアノーゼ、			
３　主な検査			
４　主な治療・処置			
１）安静	５）ｲﾝﾀｰﾍﾞｰｼｮﾝ治療		
２）酸素投与（吸入）	６）手術療法		
３）食事療法	７）心臓ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ		
４）薬物療法			
５　主な疾患とその治療			
１）心不全	７）心筋症		
２）ショック	８）血圧異常		
３）不整脈	９）脈管疾患		
４）心臓弁膜症	10）先天性心疾患		
５）虚血性心疾患	11）そのほかの疾患		
６）心筋・心膜疾患			
【各系統別疾患　呼吸器系】			
１　構造と機能			
２　主な症状と病態生理			
１）咳（咳嗽）			
２）痰（喀痰）			

3）血痰・喀血 4）呼吸困難（息切れ） 5）胸痛 6）チアノーゼ 3　主な徴候（身体所見）と検査 1）身体所見　5）胸腔鏡検査 2）呼吸機能検査　6）微生物検査 3）画像検査　7）胸腔穿刺検査 4）気管支鏡検査 4　主な治療・処置 1）薬物療法　5）酸素療法 2）放射線療法　6）人工呼吸療法 3）吸入療法　7）手術療法 4）胸腔ドレナージ　8）呼吸ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ 5　主な疾患とその治療 1）呼吸器感染症　7）呼吸器の腫瘍性疾患 2）免疫・アレルギー性疾患　8）胸腔・縦隔の非腫瘍性疾患と胸郭の異常 3）気道系の非感染性疾患 4）肺実質の非感染性疾患　9）呼吸機能障害 5）間質性肺疾患　10）胸部外傷 6）肺循環障害		
使用する図書 看護学入門８巻「成人看護Ⅰ」メヂカルフレンド社 看護学入門９巻「成人看護Ⅱ」メヂカルフレンド社 看護学入門 10 巻「成人看護Ⅲ」メヂカルフレンド社		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名　成人看護 【成人看護Ⅱ】	時間数　１４０Ｈ 【各系統別疾患３４Ｈ】 消化器系（８Ｈ）・内分泌代謝系（４Ｈ） 腎泌尿器系（４Ｈ）・女性生殖器系（６Ｈ） 皮膚科（２Ｈ）・眼科（４Ｈ） 平衡聴覚器系（４Ｈ）・歯口腔（２Ｈ） 時期　１年後期	講義担当者 外部講師

単元目標

主な症状、病態生理および主要な疾患とそれらの治療法の概要について学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

授業内容	方法	備考
【各系統別疾患　消化器系】 １　構造と機能 ２　主な症状と病態生理 １）食欲不振 ２）嚥下障害・嚥下困難 ３）胸やけ、げっぷ ４）悪心・嘔吐 ５）腹痛 ６）吐血 ７）下血 ８）下痢 ９）便秘 10）鼓腸 11）腹水 12）黄疸 13）肝性脳症（肝性昏睡） ３　主な検査 １）画像検査 ２）内視鏡検査 ３）検体検査 ４　主な治療・処置 １）薬物療法 ２）栄養療法 ３）手術療法 ４）放射線療法 ５　主な疾患とその治療 １）口腔・食道の疾患 ２）胃・十二指腸の疾患 ３）腸・腹膜の疾患 ４）肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓の疾患 ５）肛門の疾患 ６）薬物の有害反応による消化器疾患 ７）急性腹症	講義	

【各系統別疾患　内分泌代謝系】 1　構造と機能 1）視床下部・下垂体　5）副腎 2）甲状腺　6）性腺 3）副甲状腺（上皮小体）　7）乳腺 4）膵島（ランゲルハンス島） 2　主な症状と病態生理 1）内分泌・代謝疾患の主な症状 肥満、成長異常、顔貌の変化、発汗異常、色素異常、 血圧異常、脈拍異常、口渇・多飲・多尿、意識障害 3　主な検査 4　主な疾患とその治療 1）下垂体の主な疾患　6）性腺の主な疾患 2）甲状腺の主な疾患　7）乳腺の主な疾患 3）副甲状腺の主な疾患　8）代謝疾患(糖尿病) 4）副腎の主な疾患　9）その他の代謝疾患 5）膵島腫瘍 【各系統別疾患　腎泌尿器系】 1　構造と機能 1）腎・泌尿器の構造 2）腎臓の機能 2　主な症状と病態生理 1）浮腫　5）尿毒症 2）高血圧　6）尿混濁 3）水と電解質の異常　7）腎疝痛 4）排尿障害 3　主な検査 1）尿の検査　5）内視鏡、カテーテル 2）分泌物および精液の検査　による検査 3）腎機能検査　6）生検 4）画像検査 4　主な疾患とその治療 1）腎臓の主な疾患　5）尿道の主な疾患 2）尿管の主な疾患　6）陰嚢・精巣の主な疾患 3）膀胱の主な疾患　7）陰茎の主な疾患 4）前立腺の主な疾患、		

【各系統別疾患　女性生殖器系】 1　構造と機能 　1）女性生殖器の構造 　2）女性の性機能 2　主な症状と病態生理 　1）月経異常 　2）異常性器出血(不正出血) 　3）下腹部痛、腰痛 　4）帯下、外陰部掻痒感 　5）排尿障害 　6）下腹部腫瘤感・膨満感 3　主な診察法と検査 　1）婦人科における診察 　2）主な検査 4　主な治療法 　1）婦人科処置 　2）薬物療法 　3）放射線療法 　4）婦人科手術 　5）避妊 5　主な疾患とその治療 　1）形態と位置の異常 　2）性器の炎症 　3）腫瘍（新生物） 　4）月経異常 　5）思春期と更年期の異常 　6）不妊症・不育症 　7）性感染症 【各系統別疾患　皮膚科】 1　構造と機能 　1）皮膚の構造 　2）皮膚の機能 2　主な症状と病態生理 　1）原発疹 　2）続発疹 　3）発疹の性状 3　主な検査 4　主な疾患とその治療 　1）湿疹・皮膚炎群 　2）蕁麻疹、掻痒、皮膚掻痒症 　3）紅斑症 　4）紫斑病 　5）中毒疹、薬疹、紅皮症 　6）物理的皮膚障害 　7）光線性皮膚障害 　8）膠原病 　9）水疱症 　10）炎症性角化症、膿疱症角化症 　11）色素異常症 　12）発汗異常、毛包脂腺系疾患、毛髪・爪疾患		

13）母斑、母斑症 14）皮膚腫瘍 15）細菌感染症 16）真菌感染症 17）ウイルス性疾患 18）動物寄生性疾患 19）性感染症－梅毒 20）そのほかの感染症 【各系統別疾患　眼科】 1　構造と機能 2　主な症状と病態生理 1）外眼部、前眼部、そのほかの疾患に伴う症状、 2）視機能障害を伴う症状 3　主な検査 4　主な治療・処置 1）屈折矯正 2）弱視・斜視治療 3）薬物療法 4）手術療法 5　主な疾患とその治療 1）屈折異常 2）調節異常 3）斜視、弱視 4）眼球運動障害 5）眼振 6）色覚異常 7）眼瞼・眼窩疾患 8）結膜疾患 9）涙器疾患 10）角膜疾患 11）強膜炎 12）ぶどう膜疾患 13）網膜疾患 14）視神経疾患、視路の障害 15）水晶体疾患 16）緑内障 17）硝子体疾患 18）眼の腫瘍 19）眼の外傷と応急処置 【各系統別疾患　平衡聴覚器系】 1　構造と機能 2　主な症状と病態生理 1）耳疾患の症状と病態生理 2）鼻疾患の症状と病態生理 3）口腔・咽頭疾患の症状と病態生理 4）喉頭疾患の症状と病態生理 3　主な検査 4　主な疾患とその治療 1）耳疾患		

2）鼻疾患 3）咽頭疾患 4）喉頭疾患 【各系統別疾患　歯・口腔】 1　構造と機能 2　主な症状と病態生理 1）疼痛　5）咬合異常、歯列不正 2）腫脹　6）開口障害 3）歯の動揺　7）口臭 4）歯質および歯の欠損、欠如 3　主な診査・検査と介助 1）診査・診療器具の準備と介助 2）前処置 4　主な治療と処置 1）保存科診療 2）口腔外科診療 3）補綴科診療 4）矯正科診療、小児歯科診療 5　主な疾患とその治療 1）歯の疾患　5）神経性疾患 2）口腔粘膜疾患　6）唾液腺疾患 3）歯および口腔粘膜疾患の継発症　7）口腔の腫瘍 8）嚢胞形成疾患 4）顎骨の損傷（骨折）		
使用する図書 看護学入門８巻「成人看護Ⅰ」メヂカルフレンド社 看護学入門９巻「成人看護Ⅱ」メヂカルフレンド社 看護学入門 10 巻「成人看護Ⅲ」メヂカルフレンド社		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名　成人看護 【成人看護Ⅲ】	時間数　１４０Ｈ 【３６Ｈ：概論８Ｈ、各系統別看護２８Ｈ】 各系統別看護 脳神経系（８Ｈ）・筋骨格系（８Ｈ） 血液造血器・免疫系（６Ｈ） 女性生殖器（６Ｈ） 時期　１年後期	講義担当者 外部講師 専任教員

単元目標

１．成人期が人の一生、ライフサイクルのなかでどのような時期にあるのかを理解し、この時期にある人が身体的、精神的、社会的にどのような問題を持ち、健康上の問題が何であるのかを学ぶ。

２．各系統に障害のある患者に日常生活援助と診療の援助ができるための知識と技術を学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

ＤＰ７：チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

ＤＰ８：専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
【概論】 １　成人看護の対象理解 １）ライフサイクルにおける成人期とは ２）発達段階と発達課題 ２　成人各期の発達課題とその特徴 １）青年期の発達課題と特徴 ２）壮年期・中年期の発達課題と特徴 ３　成人期の生活と健康障害 １）成人期の生活・健康の状況 ２）成人期の生活における健康問題 ３）成人保健対策 ４）健康障害をもつ成人期の人の理解 ４　成人看護の特徴と役割 １）様々な病期にある成人期の患者の看護 ２）様々な状況にある成人期の患者の看護 ３）成人期の患者の家族の看護 【各系統別看護　脳神経系】 １　脳神経疾患看護の基本 ２　経過別看護 ３　主な症状と看護	講義	

1）頭痛 2）意識障害 3）運動麻痺 4）運動失調 5）嚥下障害 6）感覚障害 7）排尿障害 8）言語障害 9）失認 10）失行 11）痙攣 12）認知障害 13）頭蓋内圧亢進症状 4　検査・治療・処置に伴う看護 1）腰椎穿刺 2）脳波検査 3）ＣＴ検査 4）ＭＲＩ検査 5）脳血管造影 6）手術療法 5　主な疾患患者の看護 1）認知症 2）脳梗塞、脳出血 3）頭部外傷 4）急性硬膜下血腫 5）脳腫瘍 6）髄膜炎 7）多発性硬化症 8）パーキンソン病 9）筋萎縮性側索硬化症 【各系統別看護　筋骨格系】 1　筋骨格疾患看護の基本 2　経過別看護 3　主な症状と看護 1）疼痛 2）神経障害 3）循環障害、 フォルクマン拘縮 4）出血 5）深部静脈血栓症 6）褥瘡 4　検査・治療・処置に伴う看護 1）診察時の看護 2）主な検査時の看護 3）主な治療・処置時の看護 保存療法、手術療法 5　主な疾患患者の看護 1）骨折 2）そのほかの骨疾患 3）脊椎・脊髄疾患 4）脱臼 5）関節の変形性疾患 6）化膿性関節炎 7）関節リウマチ 8）腫瘍 9）四肢切断		

【各系統別看護　血液造血器・免疫系】 1　血液・造血器・免疫疾患看護の基本 2　経過別看護 3　主な症状と看護 　1）貧血 　2）発熱 　3）出血傾向 　4）易感染性 4　検査・治療・処置に伴う看護 　1）骨髄検査　　4）放射線療法 　2）化学療法　　5）造血幹細胞移植 　3）輸血療法 5　主な疾患患者の看護 　1）再生不良性貧血　　5）感染症 　2）白血病　　6）アレルギー疾患 　3）悪性リンパ腫　　7）膠原病 　4）播種性血管内凝固症候群(DIC) 【各系統別看護　女性生殖器系】 1　女性生殖器疾患看護の基本 2　経過別看護 3　主な症状と看護 　1）異常(不正)性器出血　　5）排尿障害 　2）下腹部痛　　6）下腹部腫瘤感・膨満感 　3）帯下　　7）自律神経症状・ 　4）外陰部掻痒感、　　不定愁訴 4　診察・検査・治療・処置に伴う看護 　1）診察時の看護 　2）検査時の看護 　3）治療・処置時の看護 　　一般治療・処置、薬物療法、放射線療法、手術療法 5　主な疾患患者の看護 　1）外陰疾患 　2）膣疾患 　3）腫瘍・がん 　4）そのほかの障害		感染症、アレルギー疾患、膠原病患者の看護を含む

<table>
<tr><td>使用する図書
看護学入門８巻「成人看護Ⅰ」メヂカルフレンド社
看護学入門９巻「成人看護Ⅱ」メヂカルフレンド社
看護学入門 10 巻「成人看護Ⅲ」メヂカルフレンド社</td><td rowspan="3">評価方法
筆記試験</td></tr>
<tr><td>参考図書</td></tr>
<tr><td>受講上の注意</td></tr>
</table>

科目名　成人看護 【成人看護Ⅳ】	時間数　１４０Ｈ 【系統別看護４０Ｈ】 呼吸器系（６Ｈ）・循環器系（６Ｈ） 消化器系（１０Ｈ） 内分泌代謝系（６Ｈ）・腎泌尿器系（６Ｈ） 皮膚科（２Ｈ） 眼科（２Ｈ）・平衡聴覚器系（２Ｈ） 時期　１年後期	講義担当者 外部講師 専任教員

単元目標

各系統に障害のある患者に日常生活援助と診療の援助ができるための知識と技術を学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

ＤＰ７：チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

ＤＰ８：専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
【各系統別看護　呼吸器系】 １　呼吸器疾患看護の基本 ２　経過別看護 ３　主な症状と看護 １）咳嗽 ２）喀痰 ３）呼吸困難 ４）血痰・喀血 ５）胸水 ４　検査・治療・処置に伴う看護 １）検査に伴う看護 肺生検、ツベルクリン検査、胸水検査、画像検査、 気管支鏡検査、動脈血採血 ２）治療・処置に伴う看護 吸入療法、肺理学療法、胸腔ドレナージ、酸素療法、 人工呼吸器、手術療法 ５　主な疾患患者の看護 １）肺炎 ２）肺結核 ３）間質性肺炎 ４）気管支喘息 ５）慢性閉塞性肺疾患(COPD) ６）肺血栓塞栓症 ７）急性呼吸促迫症候群 (ARDS) ８）睡眠時無呼吸症候群 ９）肺がん 10）気胸	講義	

【各系統別看護　循環器系】 1　循環器疾患看護の基本 2　経過別看護 3　主な症状と看護 　1）動悸　　5）胸痛 　2）不整脈　　6）浮腫 　3）高血圧　　7）失神 　4）呼吸困難感 4　検査・治療・処置に伴う看護 　1）検査に伴う看護 　　心電図、心臓超音波検査、心臓カテーテル検査 　2）治療に伴う看護 　　薬物療法、食事療法、ペースメーカー治療、手術療法等 5　主な疾患患者の看護 　1）高血圧症　　5）胸・腹部大動脈瘤 　2）虚血性心疾患　　6）大動脈解離 　3）心不全　　7）下肢静脈瘤 　4）不整脈（ペースメーカー植込） 【各系統別看護　消化器系】 1　消化器疾患看護の基本 2　経過別看護 3　主な症状と看護 　1）腹痛　　6）便秘 　2）黄疸　　7）吐血・下血 　3）食欲不振　　8）腹部膨満(鼓腸、腹水) 　4）悪心・嘔吐　　9）胸やけ、げっぷ 　5）下痢　　10）嚥下困難・嚥下障害 4　検査・治療・処置に伴う看護 　1）検査に伴う看護 　　上下部消化管内視鏡、消化管造影、腹部血管造影、 　　エコー下肝生検、経皮的肝臓内エタノール注入・ラジオ 　　波焼灼療法、胆管・胆嚢造影 　2）治療に伴う看護 　　手術療法、放射線療法、化学療法、人工肛門造設、 　　経皮内視鏡的胃瘻造設術		

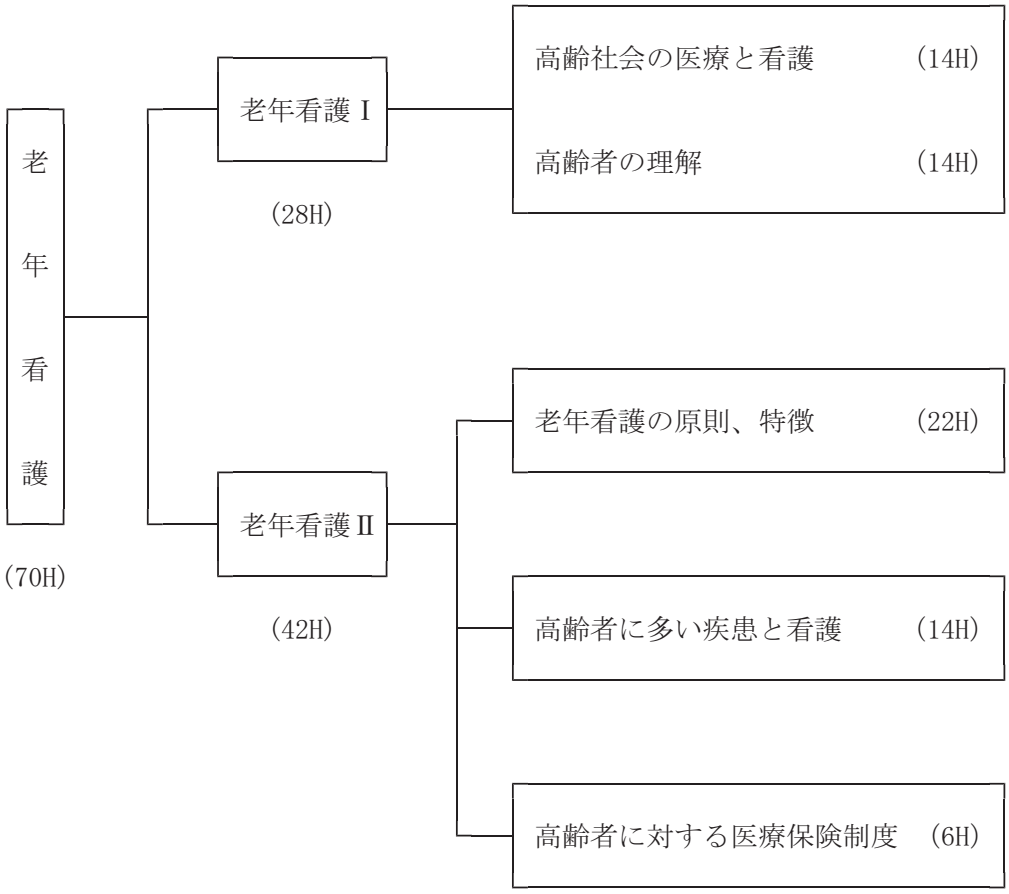
5　主な疾患患者の看護 1）胃・十二指腸潰瘍　　9）膵炎 2）胃がん　　10）急性腸炎(食中毒) 3）食道がん　　11）急性腹膜炎 4）急性肝炎　　12）腸閉塞 5）慢性肝炎　　13）潰瘍性大腸炎 6）肝硬変　　14）大腸がん 7）肝がん　　15）ヘルニア 8）胆石症・胆嚢炎　　16）肛門疾患 【各系統別看護　内分泌代謝系】 1　内分泌代謝疾患看護の基本 2　経過別看護 3　主な症状と看護 1）糖尿病の症状と看護 口渇、多尿、多飲、倦怠感、体重減少、高血糖昏睡、低血糖昏睡 2）内分泌疾患の症状と看護 易疲労、倦怠感、体重減少、皮膚症状、精神神経症状 4　検査・治療・処置に伴う看護 1）糖尿病の検査・治療・処置に伴う看護 2）甲状腺疾患の検査・治療・処置に伴う看護 3）乳腺疾患の治療・処置に伴う看護 5　主な疾患患者の看護 1）糖尿病　　6）下垂体機能低下症 2）甲状腺機能亢進症　　7）肥満・メタボリックシンドローム 3）甲状腺機能低下症 4）副甲状腺機能亢進症　　8）痛風 5）副甲状腺機能低下症 【各系統別看護　腎泌尿器系】 1　腎泌尿器疾患看護の基本 2　経過別看護 3　主な症状と看護 1）浮腫　　5）貧血・出血傾向 2）高血圧　　6）骨・関節症状 3）尿の異常　　7）疼痛・発熱 4）消化器症状　　8）性・生殖機能の障害		

4　検査・治療・処置に伴う看護 1）主な検査時の看護 尿検査、腎機能検査、腎生検、内視鏡検査、 静脈性腎盂造影 2）主な治療時の看護 手術療法、透析療法、体外衝撃波結石破砕術、薬物療法、 食事療法、腎移植、化学療法、放射線療法、免疫療法・ ホルモン療法 5　主な疾患患者の看護 1）糸球体腎炎　7）前立腺炎 2）腎不全　8）尿路結石 3）慢性腎臓病　9）膀胱炎 4）腎盂腎炎　10）尿路・男性性器の腫瘍 5）ネフローゼ症候群　11）精巣上体炎 6）前立腺肥大 【各系統別看護　皮膚科】 1　皮膚疾患看護の基本 2　経過別看護 3　主な症状と看護 1）発疹（皮疹）　4）分泌物 2）掻痒　5）鱗屑・落屑 3）疼痛　6）びらん、潰瘍 4　検査・治療・処置に伴う看護 1）パッチテスト　6）密封療法 2）真菌検査　7）紫外線療法 3）液体窒素凍結療法　8）レーザー照射 4）外用療法　9）手術 5）内服療法　10）皮膚病理組織学的検査 5　主な疾患患者の看護 1）アトピー性皮膚炎　6）熱傷 2）蕁麻疹　7）凍傷 3）尋常性乾癬　8）褥瘡 4）帯状疱疹・単純性疱疹　9）悪性腫瘍 5）白癬・皮膚カンジダ症 【各系統別看護　眼科】 1　眼疾患看護の基本		

2　経過別看護 3　主な症状と看護 　1）充血　　7）夜盲 　2）眼痛　　8）羞明 　3）流涙　　9）飛蚊症 　4）かゆみ　　10）複視 　5）視力障害　　11）眼脂 　6）視野障害 4　検査・治療・処置に伴う看護 　1）診察時の看護　　4）点眼時の看護 　2）主な検査時の看護　　5）そのほかの処置 　3）洗眼時の看護 5　主な疾患患者の看護 　1）流行性角結膜炎　　7）フォークト‐小柳‐原田病 　2）白内障 　3）緑内障　　8）中途失明 　4）網膜剝離　　9）ロービジョンケア 　5）糖尿病網膜症　　10）保存療法を受ける患者 　6）眼外傷 【各系統別看護　平衡聴覚器系】 1　耳鼻咽喉疾患看護の基本 2　経過別看護 3　主な症状と看護 　1）耳に現れる症状 　　耳痛、耳漏、耳鳴、難聴、めまい 　2）鼻に現れる症状 　　鼻閉、鼻漏、鼻出血、嗅覚障害 　3）咽頭・喉頭に現れる症状 　　咽頭痛、嗄声、呼吸困難（呼吸障害）、嚥下障害 4　検査・治療・処置に伴う看護 　1）主な検査・処置 　2）手術 　3）放射線療法 5　主な疾患患者の看護 　1）主な耳疾患患者の看護 　　外耳道炎、急性中耳炎、慢性中耳炎、滲出性中耳炎、 　　メニエール病、突発性難聴		

<table>
<tr><td colspan="2">2）主な鼻疾患患者の看護
慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎
3）主な咽喉疾患患者の看護
急性扁桃炎、扁桃周囲炎・扁桃周囲膿瘍、喉頭がん</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">使用する図書
看護学入門８巻「成人看護Ⅰ」メヂカルフレンド社
看護学入門９巻「成人看護Ⅱ」メヂカルフレンド社
看護学入門 10 巻「成人看護Ⅲ」メヂカルフレンド社</td><td rowspan="3">評価方法
筆記試験</td></tr>
<tr><td>参考図書</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講上の注意</td></tr>
</table>

老　年　看　護


老年看護
(70H)
老年看護Ⅰ
(28H)
高齢社会の医療と看護　(14H)
高齢者の理解　(14H)
老年看護Ⅱ
(42H)
老年看護の原則、特徴　(22H)
高齢者に多い疾患と看護　(14H)
高齢者に対する医療保険制度　(6H)

科目名 老年看護Ⅰ	時間数　２８Ｈ 時期　１年後期	講義担当者 専任教員

科目のねらい・授業目標

老年期にある対象の加齢に伴う身体的・心理的・社会的変化について学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１　対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ７　チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

授業内容	方法	備考
１高齢者（老年期）とは ・高齢者の身体的・精神的・社会的特徴 ・高齢者と社会	講義 老人体験	
２高齢社会の医療と看護 ・少子高齢社会の理解 ・高齢者の健康問題 ・高齢者に対する保健、医療、福祉の現状 ・高齢者看護の機能と役割 ・高齢者看護の場		
３介護保険制度と地域包括システムの現状	講義 演習（ＧＷ）	

使用する図書 老年看護　メヂカルフレンド社	評価方法 筆記試験
参考図書	
受講上の注意	

科目名	時間数　４２Ｈ	講義担当者
老年看護Ⅱ	原則・特徴　22H 疾患と看護　14H （外部講師 4H 専任教員 10H） 制度について 6H 時期　２年前期 ～後期	専任教員 （原則・疾患） 外部講師（制度）

科目のねらい・授業目標

・老年期にある対象の健康上の諸問題について知り、その状況に応じた看護を学ぶ。

・老年期にある対象に必要な看護が実践できる基礎的能力を養う。

DP との関連

ＤＰ４　基本的な日常生活援助ができる。

ＤＰ６　自己の課題に謙虚に取り組み、振り返りができる。

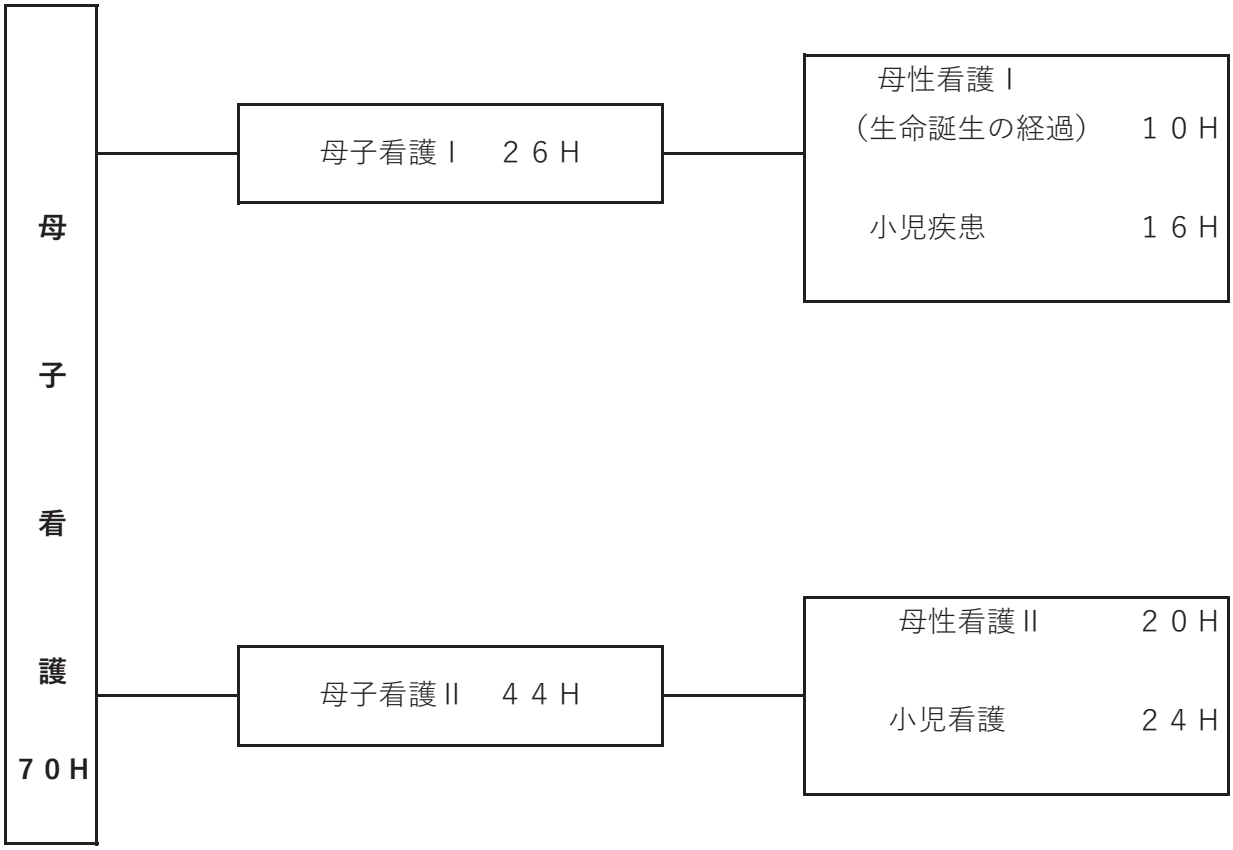
ＤＰ７　チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

ＤＰ８　専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容		方法	備考
高齢者看護の原則	22H	講義	専任教員
・高齢者の特性を踏まえた看護の視点			
在宅における高齢者看護		講義	
・介護保険制度について			介護保険制度
・施設における援助の実際			地域包括ケアシ
・社会資源のネットワーク及び調整			ステムについて
地域包括ケアシステム			は外部講師
他職種連携			
高齢者看護の特徴		講義	専任教員
・日常生活の自立に対する援助			事例検討
・検査治療を受ける高齢者の看護			
高齢者に多い疾患と看護	10Ｈ・４Ｈ	講義	外部講師 専任教員
高齢者に対する医療保険制度	６Ｈ	講義	外部講師

使用する図書	評価方法
老年看護　メヂカルフレンド社	
参考図書　　成人看護Ⅱ・Ⅲ	筆記試験
受講上の注意	制度：試験なし

母　子　看　護


母子看護
７０Ｈ
母子看護Ⅰ　２６Ｈ
母性看護Ⅰ
（生命誕生の経過）　１０Ｈ
小児疾患　１６Ｈ
母子看護Ⅱ　４４Ｈ
母性看護Ⅱ　２０Ｈ
小児看護　２４Ｈ

科目名　母子看護Ⅰ（母性看護Ⅰ） 生命誕生の経過	時間数 10H 時期 １年後期	講義担当者 外部講師 または専任教員

科目目標

母性の特徴を理解し、妊婦・産婦・褥婦及び新生児の看護について学ぶ。

単元目標

正常な妊娠、分娩、産褥と新生児期の経過を学ぶ。

妊娠、分娩、産褥および新生児期の異常の種類や症状を理解し治療と予防法について学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

ＤＰ３：対象者と信頼関係を築くための努力を行い必要なコミュニケーションがとれる。

ＤＰ７：チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

ＤＰ８：専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
【正常な妊婦、産婦、褥婦および新生児期の経過】（４Ｈ） １．妊娠 １）妊娠の生理 ２）妊婦の診察 ２．分娩 １）分娩の生理 ２）分娩監視 ３）分娩準備教育と産痛緩和法 ４）産科麻酔(無痛分娩) ３．産褥 １）産褥の生理 ４．新生児 １）新生児の生理	講義	
【妊婦、産婦、褥婦および新生児にみられる異常】（４Ｈ） １．妊娠の異常（ハイリスク妊娠） １）妊娠初期の異常 ２）妊娠中・後期の異常 ３）妊娠中の母胎・胎児に影響を及ぼす疾患 ２．分娩の異常 １）胎児機能不全 ２）胎位・胎勢の異常	講義	

3）産道の異常 4）娩出力の異常 5）分娩時の母体損傷 6）児娩出後の異常 7）産科ショック・播種性血管内凝固（ＤＩＣ） 8）異常分娩時の産科手術 9）分娩誘発 3．産褥の異常 1）産褥熱 2）子宮復古不全 3）産褥静脈血栓症 4）乳腺炎 5）その他の異常 4．新生児の異常　　（２H） 1）新生児仮死 2）感染症 3）分娩による新生児の損傷 4）重症黄疸 5）新生児メレナ 6）嘔吐 7）臍の異常 8）低出生体重児 9）先天異常		
使用する図書 看護学入門　第 12 巻　母子看護　メヂカルフレンド社		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名　母子看護Ⅰ 小児疾患	時間数 16H 時期 １年後期	講義担当者 外部講師

授業目標

小児の特徴を理解し、疾病、傷害を持つ小児の日常生活と診療の援助について学ぶ。

単元目標

小児にみられる主な疾患についてそれぞれの原因、症状、治療の基礎を学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

ＤＰ３：対象者と信頼関係を築くための努力を行い必要なコミュニケーションがとれる。

ＤＰ７：チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

ＤＰ８：専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
１．新生児の疾患 ２．乳児栄養障害 ３．呼吸器系の疾患 ４．循環器系の疾患 ５．消化器系の疾患 ６．血液・造血器系の疾患 ７．免疫・アレルギー性疾患・膠原病 ８．感染症 ９．内分泌系疾患 10。代謝疾患 11．腎・尿路・生殖器系の疾患 12．脳・神経・筋系の疾患 13．先天性疾患 14．小児期の悪性固定腫瘍 15．その他の小児疾患	講義	

使用する図書

看護学入門　第 12 巻　母子看護　メヂカルフレンド社

参考図書

受講上の注意

評価方法

筆記試験

科目名　母子看護Ⅱ（母性看護Ⅱ）	時間数 20H 時期 ２年前期	講義担当者 専任教員

単元目標

健康な次世代の育成のために、母と子の関係の重要性を理解し、母子看護のあり方について学ぶ。
母性の特徴、母子保健の現状、母性各期の特徴について学ぶ。
正常な経過をふまえた妊婦・産婦・褥婦及び新生児の看護を学ぶ。
異常状態にある妊婦、産婦、褥婦及び新生児の看護を学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。
ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。
ＤＰ３：対象者と信頼関係を築くための努力を行い必要なコミュニケーションがとれる。
ＤＰ７：チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。
ＤＰ８：専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
【母性看護概論】 １．母性看護とは １）母性と母性看護　２）母性看護を学ぶ目的 ３）母性看護のあり方 ２．母子の健康に影響する因子 １）出生前　２）出産時 ３）出生後 ３．母性の特徴 １）身体的特徴　２）心理的特徴 ３）社会的特徴 ４．母性各期の特徴と看護 １）思春期　２）成熟期 ３）更年期　４）老年期 ５．母子保健の現状と動向 １）母子保健の発達　２）母子保健の現状と対策 ６．女性の健康と権利に関する概念 １）リプロダクティブヘルス／ライツ ２）セクシュアリティ ３）ドメスティックバイオレンス ４）生命倫理と生殖補助医療 ７．母性看護における安全管理	講義	

【妊婦、産婦、褥婦および新生児の看護】 1．妊婦の看護 　1）健康診査　　2）保健指導 2．産婦の看護 　1）入院時の看護　　2）分娩第１期の看護 　3）分娩第２期の看護　　4）分娩第３期の看護 　5）分娩直後の看護　　6）分娩に必要な設備と備品 3．褥婦の看護 　1）観察　　2）清潔 　3）休息と運動　　4）産褥体操 　5）便通　　6）授乳指導 　7）退院指導 4．新生児の看護 　1）出生直後の新生児の看護 　2）新生児室と母子同室制 　3）新生児医療	講義	新生児の養育に関する看護技術は小児看護で学習する
【妊婦、産婦、褥婦および新生児にみられる異常と看護】 1．妊娠の異常と看護 　1）妊娠悪阻　　2）妊娠高血圧症候群 　3）糖尿病・妊娠糖尿病　　4）常位胎盤早期剥離 　5）前置胎盤　　6）胎児発育不全 　7）流産・切迫早産　　8）人工妊娠中絶 　9）子宮外妊娠 　10）分娩予定日を過ぎた妊婦への看護 　11）妊娠性貧血の予防と看護 2．分娩の異常と看護 　1）胎児機能不全 　2）産道の異常（骨産道、軟産道） 　3）娩出力の異常（微弱陣痛） 　4）胎児、胎児付属物の異常（胎勢の異常、回旋異常） 　5）分娩時の母体損傷・異常出血 　6）産科ショック・播種性血管内凝固（ＤＩＣ） 3．産褥の異常と看護 　1）産褥熱　　2）子宮復古不全 　3）乳房の異常　　4）産褥期精神障害 4．新生児の異常と看護 　1）新生児仮死	講義	

<table>
<tr><td>2）新生児感染症
3）分娩外傷のある児
4）新生児黄疸
5）低出生体重児</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">使用する図書
看護学入門　第 12 巻　母子看護　メヂカルフレンド社</td><td rowspan="3">評価方法
筆記試験</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講上の注意</td></tr>
</table>

科目名　母子看護Ⅱ 小児看護	時間数 24H 時期 ２年前期	講義担当者 専任教員

単元目標

・小児保健の動向、小児の発達と生理、栄養、小児の養護、疾病予防の基礎を学び、小児看護の特徴を理解する。

・小児の診療介助と看護の基本、疾患に対する看護の基礎を学ぶ。

・健康障害の病態生理・症状・検査などを理解し、小児特有の看護の実際について学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

ＤＰ３：対象者と信頼関係を築くための努力を行い必要なコミュニケーションがとれる。

ＤＰ７：チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

ＤＰ８：専門職としての必要な学習が継続できる。

授業内容	方法	備考
【小児看護概論】		
１．小児看護の基本	講義	
１）小児の特徴　２）小児の発達段階の特徴		
３）小児看護の役割　４）小児看護の特徴		
５）小児看護のあり方		
２．小児保健の動向		
１）小児の保健と福祉　２）小児の衛生統計		
３）小児保健の今後の方向		
３．小児の解剖・生理		
１）小児の解剖学的特徴　２）小児の生理的特徴		
４．小児の成長・発達		
１）小児期の分類　２）小児の成長・発達		
３）成長・発達の評価		
５．小児の栄養		
１）小児の栄養の特徴　２）食事摂取基準		
３）乳児の栄養　４）幼児の栄養		
５）食育		
６．小児の養護	学内演習（おむつの当て方、衣服の着脱、調乳・授乳）	
１）衣服　２）食事		
３）睡眠　４）排泄		
５）清潔　６）居室		
７）外気浴・日光浴　８）遊び		

9）抱く 7．小児の疾病予防・予防接種 【小児疾患患児の看護】 1．小児の診療介助と看護 1）外来での対応　2）入院時の対応 3）入院中の世話　4）退院時の対応 2．小児看護の特殊技術 1）診察の介助　2）身体の計測 3）バイタルサインの測定　4）与薬 5）注射　6）採血 7）穿刺　8）採尿・畜尿 9）浣腸　10）体温調節 11）酸素療法　12）経管栄養 13）抑制・固定 3．特殊な問題を持つ小児の看護 1）安静を要する児　2）隔離を要する児 3）食事制限のある児　4）牽引中の児 5）ギプス包帯中の児　6）手術が必要な児 7）危篤状態の児　8）児の死後の処置 4．主な症状に対する小児の看護 不機嫌、不活発、啼泣、疼痛、発熱、痙攣、嘔吐、便秘、下痢、脱水、浮腫、発疹、意識障害、黄疸、出血、貧血、呼吸困難、チアノーゼ 5．主な疾患患児の看護 1）低出生体重児（未熟児）の看護 2）乳児栄養障害と看護 3）呼吸器系疾患患児の看護 4）循環器系疾患患児の看護 5）消化器系疾患患児の看護 6）血液疾患患児の看護 7）感染症患児の看護 8）内分泌および代謝異常症患児の看護 9）腎・泌尿器系疾患患児の看護 10）神経系疾患患児の看護 11）免疫・アレルギー疾患・膠原病患児の看護 12）その他の疾患を持つ患児の看護	講義 学内演習 （診察の介助、身体計測）	

<table>
<tr><td>６．小児の救急と看護
　１）救急室
　２）救急処置と看護</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">使用する図書
　看護学入門　第 12 巻　母子看護　メヂカルフレンド社</td><td rowspan="3">評価方法
　筆記試験</td></tr>
<tr><td colspan="2">参考図書</td></tr>
<tr><td colspan="2">受講上の注意</td></tr>
</table>

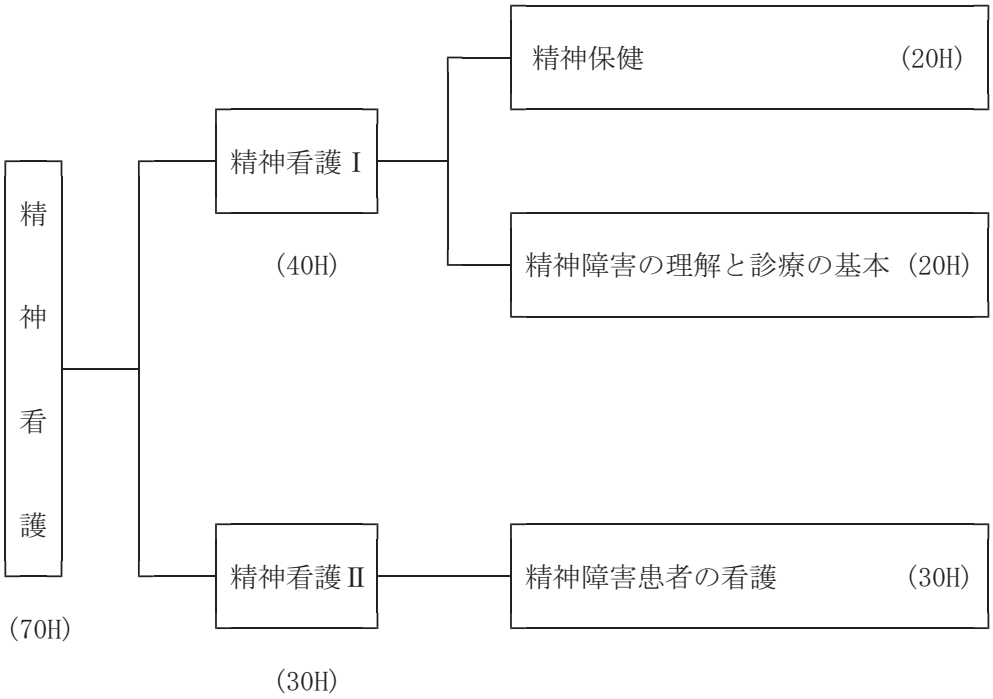
章	疾患名	症状	好発年齢	治療・処置・検査
Ⅰ 新生児の疾患	新生児の特徴 分娩外傷 新生児出血性疾患（新生児メレナ） 新生児仮死 呼吸窮迫症候群 新生児黄疸（新生児生理的黄疸・ 新生児溶血性疾患） 新生児剥脱性皮膚炎 髄膜炎 低出生体重児（未熟児の生理的特徴 未熟児網膜症	吐血、下血、呼吸障害、チアノーゼ、循環不全、筋トーヌスの低下、反射興奮性の減弱、痙攣、無呼吸発作、刺激性の亢進、低体温、貧血、黄疸、出血傾向 嘔吐、腹部膨満、頭部の後屈、四肢硬直、眼球の落陽現象、全身の紅斑、ニコルスキー現象、易刺激性、不安、号泣、哺乳困難、低血糖、栄養失調状態、	新生児期	ビタミンK投与 人工サーファクタント、持続陽圧呼吸 気道吸引、アプガースコア、 ブドウ糖の静脈内注射 光線療法、交換輸血、 抗生物質投与、対症療法 保温、保育器、酸素投与、安静、
	疾患別看護： 低出生体重児			保温、安静、栄養、感染防止、観察 家族への対応
Ⅱ 乳児栄養障害	栄養障害の原因 乳児栄養失調症 ビタミン欠乏症 ビタミン過剰症	食欲減退、嘔吐、悪心、便秘、下痢、食欲不振、体重減少、腹痛、腹部膨満	新生児期 乳児期	食事療法 ビタミン剤投与
	疾患別看護： 乳児下痢症			水分出納の管理、感染予防
Ⅲ 呼吸器系の疾患	感冒（かぜ症候群） 急性咽頭炎 扁桃炎 扁桃肥大とアデノイド肥大 急性気管支炎 喘息様気管支炎 急性細気管支炎 細菌性肺炎 ウィルス性肺炎 マイコプラズマ肺炎	鼻炎症状、咽頭痛、咳、痰、嘔吐、下痢、腹痛、頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹、発熱、 鼻閉、口呼吸、クループ、呼気性喘鳴、呼吸促迫、呼吸困難、咳嗽発作、チアノーゼ、鼻翼呼吸、上気道感染症状、不穏状態、呻吟、倦怠感、不機嫌、食欲不振、呼吸障害、嗜眠状態、ショック、哺乳力低下、起座呼吸、胸水貯留、	乳幼児	薬物療法→対症療法 抗生物質・ステロイド投与 胸部X線所見。聴診。 酸素投与。 安静、保温、栄養、水分の補給。
	主な疾患別看護 かぜ症候群 肺炎	鼻閉、鼻汁、咳嗽、発熱、哺乳困難、発疹、		安静、対症看護、観察、感染防止、栄養、環境調整、水分補給、吸引、酸素吸入、アレルゲンと脱感作、生活指導、
Ⅳ 循環器系の疾患	先天性心疾患 （心室中隔欠損症・心房中隔欠損・動脈管開存症・ファロー四徴症） リウマチ性心疾患 心筋炎 起立性調節障害	肺のうっ血、呼吸不全、うっ血性心不全の症状、チアノーゼ、呼吸困難、低酸素発作（スペル）、著明な哺乳力の低下、体重増加の停止、易疲労性、心雑音、肺の感染、肺高血圧、運動時の息切れや倦怠感、胸郭の膨隆変形、発達遅滞、浮腫、肝脾腫、発熱、心肥大、顔面蒼白、嘔吐、不安症状、頻脈、不整脈、動悸、立ちくらみ、めまい、失立（脳貧血）、息切れ、腹痛、悪心・嘔吐、食欲不振、乗物酔い、朝の寝起きが悪い、	乳幼児期 小中学生に多い	手術療法→シャント術、根治手術、 薬物療法→利尿薬、強心薬、鉄剤 抗生物質、末梢血管拡張剤 酸素補給、膝胸位、 心臓カテーテル法、 対症療法、ペースメーカー挿入、 生活指導、
	主な疾患別看護 先天性心疾患	心不全症状、無酸素発作、		生活指導、環境調整、薬物療法、観察、救急処置、膝胸位、手術療法

章	疾患名	症状	好発年齢	治療・処置・検査
V 消化器系の疾患	口腔疾患（鵞口瘡） 先天性食道閉鎖 肥厚性幽門狭窄症 胃・十二指腸潰瘍 急性大腸炎（乳児下痢症） ヒルシュスプルング病 腸重積症 急性虫垂炎 ウイルス性肝炎 乳児肝炎 先天性胆道閉鎖症 鼠径ヘルニア	頬粘膜、歯肉、舌に剥がれにくい乳かす様の粘膜疹、唾液流出、嘔吐、咳嗽、呼吸困難、チアノーゼ、体重減少、脱水、皮膚緊張低下、嗜眠傾向、胃部膨満、吐血、下血、心窩部痛、下痢、腹痛、発熱、便秘、イレウス、腹部膨満、啼泣、顔色不良、苦悶状、ソーセージ様腫瘤、粘血便、頭痛、食欲不振、黄疸、皮膚掻痒感、神経症状、ビリルビン尿、灰白色便、鼠径部腫瘤、	乳児期 先天性 乳児期 先天性、	薬物療法→抗真菌薬、抗生物質、 高圧浣腸 インターフェロン療法、 HB ワクチン投与 輸液療法、 手術療法→ Ramsted の手術 人工肛門造設 食事療法、 安静、 胸部Ｘ線所見、触診、 肝生検、胆道造影、肝移植、
	主な疾患別看護 口内炎、鵞口瘡、先天性消化管閉鎖症、肥厚性幽門狭窄症、幽門痙攣症、肝炎、先天性胆道閉鎖症、腸重積症、鼠径ヘルニア、	嘔吐、全身倦怠感、不機嫌、疼痛、黄疸、掻痒感、腹部膨満、灰白色便、呼吸困難、誤嚥	乳児期	水分や栄養補給、感染防止、観察、 吐乳の防止、水分出納の管理、輸液療法、 安静、清潔保持、高圧浣腸、 開腹手術、人工肛門造設、徒手整復、
Ⅵ 血液の疾患	貧血（再生不良性貧血） 白血病 出血性疾患（血友病、特発性血小板減少性紫斑病）	顔面蒼白、食欲不振、貧血、出血傾向、易感染、凝固障害、	幼児期 先天性	鉄剤、輸血、 薬物療法→化学療法 （寛解導入、寛解強化）、 血液凝固製剤、放射線療法、骨髄移植、 対症療法、
	主な疾患別看護 鉄欠乏性貧血、血漿板減少性紫斑病、血友病、白血病、	栄養摂取不良、下痢、出血傾向、顔色不良、		鉄剤、生活指導、環境整備、出血予防、 貧血予防、感染予防、
Ⅶ 免疫・アレルギー性疾患・膠原病	免疫機能の特徴 後天性免疫不全症候群 気管支喘息 アトピー性皮膚炎 アレルギー性鼻炎 リウマチ熱 全身性エリテマトーデス 川崎病（ＭＣＬＳ）	易感染症、微熱、体重減少、下痢、リンパ節腫脹、喘鳴、起坐呼吸、不穏、チアノーゼ、呼気性呼吸困難、掻痒感、湿疹、鼻閉、鼻汁、くしゃみ、溶連菌性扁桃炎、発熱、心炎、多発関節炎、発熱、蝶形紅斑、関節痛、血尿たんぱく尿、発疹、眼球結膜の充血、苺舌、四肢末端の変化、頸部リンパ節腫脹、冠動脈瘤、	乳児期、 幼児期、 年長児の女子、	薬物療法→気管支拡張薬、 副腎皮質ステロイド薬、 抗アレルギー薬、 抗ヒスタミン薬、 アスピリン投与、抗生物質、 免疫グロブリン投与、 酸素投与、生活指導、
	主な疾患別看護 気管支喘息 全身性エリテマトーデス アトピー性皮膚炎 リウマチ熱 川崎病（ＭＣＬＳ）	呼気性の呼吸困難、発熱、蝶形紅斑、皮膚症状、関節痛、腎障害、脳血管障害、心血管系症状、湿疹、掻痒感、心雑音、易疲労性、倦怠感、肝脾腫、浮腫、呼吸困難、発熱、発疹、苺舌、眼球結膜の充血、リンパ節の腫脹、冠動脈瘤、		薬物療法→気管支拡張薬、 副腎皮質ステロイド薬、 抗アレルギー薬、 抗ヒスタミン薬、 安静、酸素吸入、 食事療法、 生活指導、感染予防、 観察、
Ⅷ 感染症	溶連菌感染症 猩紅熱 ジフテリア 百日咳 小児結核症 麻疹 風疹 突発性発疹 伝染性紅斑（リンゴ病） 水痘・帯状疱疹 流行性耳下腺炎	咽頭炎、扁桃炎、発疹、苺舌、発熱、真性クループ、嗄声、レプリーゼ、咳嗽、体重増加不良、呼吸困難、コプリック斑、リンパ腫脹、下痢、熱性痙攣、両頬部の紅斑、頭痛、嘔吐、水疱、食欲不振、耳下腺や顎下腺腫脹、粘膜疹、皮疹、脱水、下肢の弛緩性麻痺、	幼児期 乳児期	薬物療法→抗生物質、 抗毒素血清、 予防接種（ＢＣＧ接種）、 気管切開、 抗結核療法 ツベルクリン反応、 対症療法、 輸液療法、 ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ、

章	疾患名	症状	好発年齢	治療・処置・検査
Ⅷ 感染症	ヘルパンギーナ 手足口病 ロタウィルス感染症 （乳児嘔吐下痢症） ポリオ（急性灰白髄炎）			
	主な疾患別看護 猩紅熱、百日咳、破傷風、赤痢、疫痢、化膿性髄膜炎、麻疹、水痘、流行性耳下腺炎、小児結核症、	発熱、咽頭痛、嘔吐、痙攣、発疹、咳嗽、下痢、頭痛、髄膜刺激症状、カタル様症状、耳下腺や顎下腺腫脹、		清潔保持、水分補給、隔離、栄養補給、安静、保温、感染予防、予防接種（ＢＣＧ接種）、冷罨法、ツベルクリン反応、
Ⅸ 内分泌	先天性甲状腺機能低下症（クレチン症） 先天性副腎皮質過形成・副腎性器症候群	不活発、哺乳不良、腹部膨満、低体温、黄疸、特有な顔貌、低身長、知能発達遅延、外性器の色素沈着、陰茎肥大、女性仮性半陰陽、嘔吐、脱水、	先天性	マス・スクリーニング（ガスリー法）、甲状腺ホルモン薬、副腎皮質ステロイド、
Ⅹ 代謝性疾患	糖尿病 アセトン血性嘔吐症（周期性嘔吐症） 肥満症	高血糖、多尿、口渇、多飲、悪心、嘔吐、ケトン性低血糖、過体重率 20 %以上、	2 ～ 5 才に多い	インスリン療法、食事療法、運動療法、輸液療法、生活指導、
	主な疾患別看護 肥満、糖尿病、周期性嘔吐症（自家中毒症）、	肥満、低血糖発作、悪心、嘔吐、		食事療法、運動療法、生活指導、 インスリン療法、糖尿病サマーキャンプ、輸液療法、
Ⅺ 腎・泌尿器系疾患	急性糸球体腎炎 ネフローゼ症候群 尿路感染症 停留睾丸	たんぱく尿、血尿、乏尿、浮腫、高血圧、低蛋白血症、全身性浮腫、腹痛、腎不全、発熱、嘔吐、尿混濁、腰背部痛、膀胱刺激症状、生殖細胞への障害、	幼児～学童期 先天性	対症療法、食事療法、抗生物質、 水分・塩分制限、副腎皮質ステロイド療法、生活指導、 水分摂取、 手術療法、
	主な疾患別看護 急性糸球体腎炎 ネフローゼ症候群	浮腫、血尿、尿混濁、ムーンフェース、		安静、塩分やたんぱくや水分制限、水分出納管理、感染予防、副腎皮質ステロイド療法、
Ⅻ 神経・筋疾患	熱性痙攣 てんかん 急性脳症 水痘症 脳性麻痺 精神遅滞 筋ジストロフィー症 小児自閉症 摂食障害・神経性食思不振 不登校	発熱、全身性痙攣、痙攣、意識障害、異常行動、知覚異常、全般発作、部分発作、脳機能不全、嘔吐、不機嫌、頭囲拡大、頭蓋縫合離解、精神運動発達停止、片麻痺、両麻痺、四肢麻痺、筋緊張亢進、原始反射の異常、姿勢の異常、知的機能（IQ70 以下）、適応障害、独歩が遅い、転びやすい、走るのが遅い、登攀性起立、言語発達遅滞、言語異常、社会的発達の遅れ、高度のやせ、食行動異常、ボディイメージの障害、無月経、腹痛、悪心、頭痛、微熱、倦怠感、昼夜逆転、家庭内暴力、	乳幼児 18 才 未満 思春期	薬物療法→ジアゼパム坐剤 グリセロール、副腎皮質ステロイド、 抗痙攣薬、 感染予防、 行動療法、対人関係の訓練、 心理療法、言語治療、
	主な疾患別看護 てんかん、脳性麻痺、知的障害、不登校、	てんかん発作、分離不安、自我発達の未熟性、		発作の誘因となるような刺激を避ける、脳波検査、危険防止、誤飲防止、訓練や日常生活の援助、感染予防、生活習慣の再教育、カウンセリング、

章	疾患名	症状	好発年齢	治療・処置・検査
XIII 出生前疾患	染色体異常症（ダウン症候群・性染色体異常症） 先天代謝異常症 胎芽病と胎児病	特有の顔貌、筋トーヌス低下、関節過伸展、精神運動発達遅滞、言語発達遅滞、低身長、先天性心疾患、高身長、やせ型、性腺機能不全症、特有の奇形、体重増加の停止、痙攣、哺乳力低下、嘔吐、下痢、易刺激性、筋緊張低下、小頭症、先天性風疹症候群、	先天性	遺伝相談、ホルモン補充療法、 新生児スクリーニング、特殊ミルクの保育、
XIV 小児の悪性固形腫瘍	神経芽細胞腫 ウィルムス腫瘍 悪性リンパ腫 脳腫瘍	腹部腫瘤、下肢の麻痺や疼痛、高血圧、血尿、発熱、盗汗、リンパ節腫瘤、頭蓋内圧亢進症状、頭囲の拡大、局所神経症状、体幹性失調、	１才未満	手術療法、化学療法、自家骨髄移植術、画像診断、生検、放射線療法、
	主な疾患別看護 脳腫瘍	髄膜刺激症状、眼球運動の障害、大泉門膨隆、頭囲増大、		CT 検査、MRI 検査、眼底検査、脳血管造影、ドレナージ、脳室腹腔短絡術、手術療法、放射線療法、化学療法、
XV その他の小児疾患	口蓋裂・唇裂 先天性股関節脱臼 筋性斜頸 乳児突然死症候群（SIDS）	嚥下困難、体重増加不良、嚥下性肺炎、哺乳障害、 関節動揺、股関節クリック音、股関節開排制限、大腿部のしわの非対称、患側の筋肉内腫瘤、斜頸、顔面の変形、慢性低酸素状態、無呼吸、徐脈、心停止、	先天性、乳児期	手術療法、矯正装具、
	主な疾患別看護 先天性股関節脱臼 筋性斜頸 唇裂・口蓋裂	哺乳困難、誤嚥、		牽引や装具、ギプス固定、経管栄養、手術療法、言語治療、

精　神　看　護


精神看護
(70H)
精神看護Ⅰ
(40H)
精神保健　(20H)
精神障害の理解と診療の基本　(20H)
精神看護Ⅱ
(30H)
精神障害患者の看護　(30H)

科目名　精神看護Ⅰ 精神保健（２０H）・精神疾患、治療、検査（２０H）	時間数　４０H 時期　２年前期	講義担当者 外部講師

科目目標：人間の心の健康を成長発達・社会適応の面から捉え、精神の健康の保持増進と精神障害時の日常生活と診療の補助について学ぶ。

単元目標：

１．精神看護と精神保健の概要について理解する。

２．心の健康とは何かについて学び、心の不健康状態と精神障害の相違点について理解する。また、心の発達を、脳の機能や遺伝、環境との関連において学習し、人の成長過程における発達段階について学ぶ。

３．心の不健康状態を招く内的、外的要因とその対応の基本について学ぶ。

４．精神医療、精神保健の歴史について学び、精神障害者のとらえ方、患者・医療者関係の変遷について理解する。

５．精神保健福祉の具体的な内容、中心となる器官、職種について知り精神保健福祉における看護職の役割について理解する。

６．精神障害の見方と患者との接し方、精神障害の原因と種類、症状診察と検査、治療の考え方さらに精神保健と総合的医療について学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

授業内容	方法	備考
【精神保健】２０H	講義	
１．　精神看護のとらえ方　　（８H）		１・２講義 看護師
１）　精神看護のとらえ方		
（１）　精神障害および医療・看護の拡大		
（２）　精神看護技術の多様化		
（３）　精神看護の理念		
（４）トータル・ケア・システムの発展		
２．　心の健康と発達		
１）心の健康と発達		
（１）　心の健康とは何か		
（２）　脳の発達		
（３）　遺伝と環境		
（４）　発達段階の課題		
①　乳児期		
②　幼児期		

③ 遊戯期 ④ 学童期 ⑤ 青年期 ⑥ 成人期 ⑦ 老年期 ３．　心の働きと危機　　(4H) １）心の不健康と危機状況 ２）自我と防衛機制 ３）ストレスの心身への影響 ４）人間関係と心の健康 ５）環境と心の健康 （１）家族関係 （２）　学校 （３）　職場 （４）　地域社会 （５）　災害時のメンタルヘルス ６）ライフサイクルにおける心の危機 ４．　精神保健福祉の変遷　　(4H) １）精神医療の歴史 ２）わが国の精神保健福祉の歴史 ５．　精神保健福祉施策　　(4H) １）精神保健福祉のとらえ方 ２）精神保健福祉の資源と施策 ３）精神的健康の保持・増進 【精神障害の理解と診療の基本】　　（２０Ｈ） １．　精神障害者の診療 １）精神障害者に関する統計的知識 ２）精神障害の原因と種類 （１）精神障害の原因 （２）精神障害の分類 ３）精神障害の症状と精神状態 （１）　精神障害にかかわる個々の症状 （２）　精神状態と症候群		３・４・５ 講義：医師

4）精神障害の診察と検査 （1）精神障害の診察 （2）主な検査 2．　主な精神障害の治療 1）精神障害治療の考え方 （1）　薬物療法 （2）　身体療法 （3）　精神療法 （4）　社会復帰療法 2）各障害の分類と治療 （1）　器質性精神障害 （2）　物質関連障害および嗜癖性障害 （3）　統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性障害 （4）　うつ病と双極性障害 （5）　不安症群、強迫症および関連症候群 （6）　心的外傷およびストレス関連症候群 （7）　解離症候群 （8）　身体症状および関連症候群 （9）　食行動障害および摂食障害群 （１０）　睡眠―覚醒障害群 （１１）　性機能不全症候群 （１２）　性別違和 （１３）　パーソナリティ障害群 （１４）　発達障害 （１５）　小児期および発症に関する行動および情緒の障害		
使用する図書 看護学入門 13 巻「精神看護」メヂカルフレンド社		評価方法 筆記試験
参考図書		
受講上の注意		

科目名　精神看護Ⅱ	時間数　３０Ｈ 時期　２年前期	講義担当者 外部講師 （専任教員）

単元目標：

１．精神障害者の看護の基本、精神科医療の実際と福祉的視点、精神科看護の場面ごとの患者への看護を学ぶ。

２．精神障害者の主要症状とその看護および治療の援助について学ぶ。

３．看護師、患者関係の治療的意義と自己洞察の必要性を認識し、対象への接近の技術を学ぶ。

DP との関連

ＤＰ１：対象を生活する人として理解するための基礎的知識がある。

ＤＰ２：対象に関心をよせ、身体的・精神的変化に気づける。

ＤＰ３：対象者と信頼関係を築くための努力を行い必要なコミュニケーションがとれる。

ＤＰ５：対象の思いを真摯に受け止め誠実な対応ができる。

ＤＰ６：自己の課題に謙虚に取り組み、振り返りができる。

ＤＰ７：チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

授業内容	方法	備考
１．　精神障害者の看護　　(20H)	講義	
１）　精神障害の見方とコミュニケーション		
（１）精神障害の見方		
（２）精神障害者とのコミュニケーション		
２）　精神障害者看護の基本		
（１）看護の基本		
（２）　患者―看護師関係		
（３）　観察		
（４）　精神科看護における記録		
３）精神科医療の実際と福祉的視点		
（１）　精神科医療の実際		
（２）　看護援助における福祉的視点		
４）精神科看護の場とその看護		
（１）通院治療場面での看護		
（２）入院治療場面での看護		
（３）社会生活場面での看護		
５）経過と看護		
（１）症状の現れ方と観察		
（２）急性期の症状と看護		
（３）慢性期の症状と看護		

6）症状と看護 （1）疾患による症状の理解 （2）主な症状と看護 7）治療に伴う援助 （1）薬物療法と看護 （2）電気けいれん療法と看護 （3）精神療法時の看護 （4）社会復帰療法（生活療法）と看護 2．精神障害患者の看護（精神看護援助演習）（10H） 1）精神障害患者の理解とコミュニケーションの意義 方法 2）看護場面の振り返りと自己評価の方法 ＜講義展開例＞ 1) 文献学習 精神障害者およびその家族の体験記を読み、心を病むことの意味やその人の世界に触れ、対象の理解を深める。 2) 事例（プロセスレコード）を紹介し、看護場面の考察をグループで行い治療的な対人関係について考える。 複数事例の検討を行う。 3) 映像を視聴し、精神障害者およびその家族の理解を深める。	講義 演習 （課題・グループワーク）	この単元は、精神看護実習に行く前に行う。
使用する図書　看護学入門 13 巻「精神看護」メヂカルフレンド社		評価方法 筆記試験
参考図書 「看護婦が見つめた人間が病むということ」，宮古あずさ，講談社 「看護場面の再構成」，宮本真巳，日本看護協会出版会 「精神病者魂への道」，シュヴィング.G，みすず書房 「看護実践と言葉」，J.S.ヘイズ，K.H.ラーソン，メヂカルフレンド社 DVD「ビューティフルマインド」2001，アメリカ（統合失調症）		
受講上の注意		

科目名　特別講義 体育	時間数　１０Ｈ 時期　１年前期	講義担当者 外部講師

科目のねらい・授業目標

スポーツをとおして、日々の健康な生活のあり方を考える。

チームワークの重要性を理解する。

DP との関連

ＤＰ：７　チームの一員としての准看護師の役割が認識できる。

授業内容	方法	備考
１．生活におけるスポーツの意義	講義	
２．チームで取り組むスポーツ	実技	

使用する図書	評価方法 評価なし
参考図書	
受講上の注意	

科目名　特別講義 ｋａｎａｚａｗａ－ｆａｓｔ　救命講習会	時間数４Ｈ×６日 時 期　　１ 年 次 ３月中旬～	講義担当者 金沢消防局

科目のねらい・授業目標

災害時看護学生ボランティアでの活動に際し必要な知識、手技の習得。

DP との関連

教育目的に掲げてある、地域社会に貢献しうる有能な人材育成の一環として受講。

要請時のボランティア活動への参加。

授業内容	方法	備考
・救命に必要な応急手当の基礎知識と基礎技術 心肺蘇生、止血法 ・資機材の取り扱い要領・指導技法	講義 演習	

使用する図書	評価方法 評価なし
参考図書	
受講上の注意 ・日程に沿って実施 ・場所は学内又は消防署	

科目名	時間数　４Ｈ	講義担当者
施設見学（金沢こども医療福祉センター）	時期　２年次	２年生担任

科目のねらい・授業目標

地域生活・自立のための支援の実際を見学し看護の役割を考える。

DP との関連

対象を生活する人として理解し、地域で生活する人としての理解ができる能力の育成。

授業内容	方法	備考
１．センター内の見学を実施し、患児・家族への支援の実際を知る ２．見学内容を踏まえて、地域で生活するための支援について看護者の役割を考える	レポート 意見交換	

使用する図書	評価方法
参考図書	
受講上の注意	

教育に関する事項

１．授業時間

（１）年間授業時間週数　　４４週

（２）週あたりの授業時間数　　３０～３４時間

（３）講義時間　４５分を１時間とし、２時間（９０分）を１限とする

１限目	９：００～１０：３０
２限目	１０：４０～１２：１０
３限目	１３：３０～１５：００
４限目	１５：１０～１６：４０
ＳＨ	１６：４０～１６：５０

（４）臨地実習は８：３０～16：10を原則とし、実習科目により変更あり。

２．年間休業日

・土曜，日曜日

・国民の祝日に関する法律に定める日

・春季休業　夏季休業　冬期休業

・その他　学校長が必要と認めた日

３．履修要件、卒業要件

卒業するためには、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に基づき、２年以上の就業年限で准看護師課程１８９０時間以上（講義１１５５時間・実習７３５時間）を履修すること。

先修要件として、１年次基礎看護実習IIにあたりＩを、IIIにあたりIIを履修していること

２年次の成人老年看護実習、母子看護実習を履修するにあたっては次の要件を満たしていること。

①　１年次基礎看護実習　ＩIIIを履修していること

②　１年次の専門基礎・専門科目をすべて履修していること

教科外教育活動

項目		時間数		ねらい
		1年	2年	
学校行事	入学式	4		入学許可及び看護志向の自覚啓発と学習意欲の動機付け
	卒業式	4	4	教育課程修了の認定及び看護職として、社会に貢献する自覚の動機付け
	戴帽式	4		臨地実習に臨むにあたり看護者としての相応しい態度を身につけ、看護を志す者の決意と責任の自覚を促す
	学校祭	6	6	学生の自主性、協調性、創造性を養う
	定期健康診断	4	2	学生の健康管理を行うとともに、健康保健に対する意識を高める
	災害訓練	2	2	災害時の避難行動を体験し、災害時の危機管理に対する認識を高める
課外活動	入学オリエンテーション	10		教育課程のガイダンス及び学校生活に係る規律や施設利用の周知
	特別講義			特別講義により、視野を広める
	ホームルーム			教育活動を補い学校生活を円滑に進める

非　売　品

シ　ラ　バ　ス

発　行　日　2024年４月

編　　集　石川県立総合看護専門学校

高　等　課　程　准　看　護　学　科

〒920-8201　金沢市鞍月東２丁目１番地
TEL（076)238－5877（代）

印　　刷　株式会社　谷　印　刷

〒921-8022　金沢市中村町28番14号
TEL（076)242－7267番